

お知らせ: 次回発信日は2月14日週報(予定)

Jミルクが2025年1月31日に公表した「需給見通し(※2024年12月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・12月の生乳需給実績について、生乳生産量は、前年同期比+1.2%と5カ月連続で上回った。地域別に見ると北海道では+3.0%と5カ月連続で前年超え、都府県は▲1.2%と6カ月連続で前年割れとなった。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が8月下旬から1月中旬まで前年水準を上回っている。一方、都府県は6月中旬から1月中旬まで前年割れとなっているものの、減少率は縮小傾向で推移。このため、全国の受託乳量は9月下旬以降、前年水準を上回っている。12月の牛乳の生産量は、乳価改定から一巡した影響もあり+0.5%と4カ月連続で前年水準を上回った。一方、成分調整牛乳や乳飲料は低調でいずれも前年割れ。はっ酵乳は、春ごろから回復基調で推移しており12月は+9.5%と今年度の最高の伸び率を示した。このため、生乳の飲用等向処理量は+0.2%と3カ月連続で前年水準を上回っている。

・脱脂粉乳の12月の生産量は+1.5%と拡大幅は縮小したものの5カ月連続で前年超え。推定出回り量は、前年同月に比べて在庫低減対策数量の減少もあり▲18.6%と6カ月連続で前年割れとなった。単月での脱脂粉乳需給は供給量が需要量を上回り、月末在庫量は50.5千ト(+0.7%)と4か月ぶりに5万ト台となった。脱脂粉乳の在庫量が前年水準を上回るのは27週ぶり。バターの生産量は+7.0%で、推定出回り量は+5.6%。国家貿易による輸入売渡分(約1.6千ト)を考慮すると、在庫量は22.5千ト(+10.7%)と、4カ月連続で前年水準を上回った。

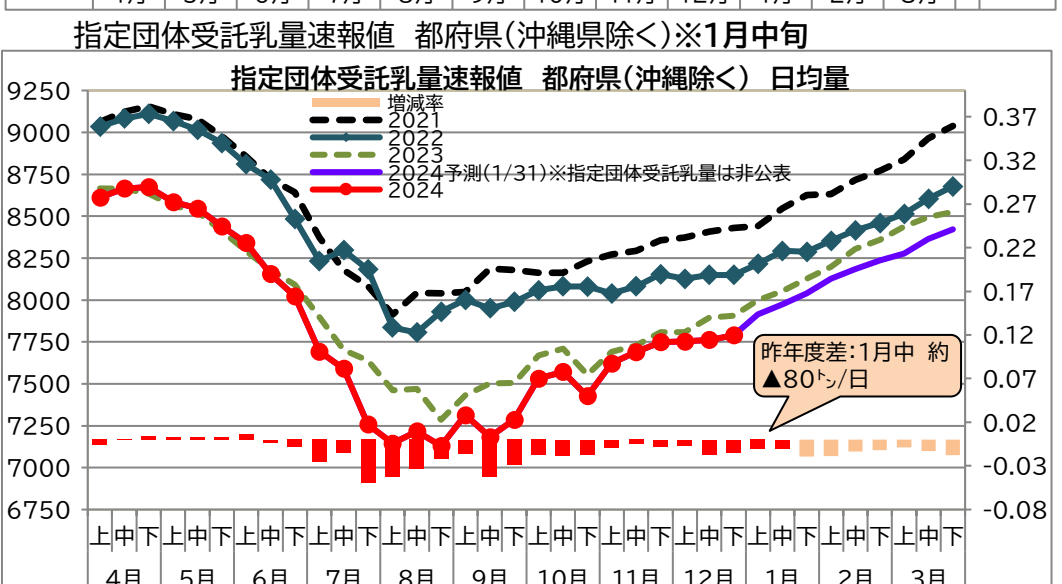
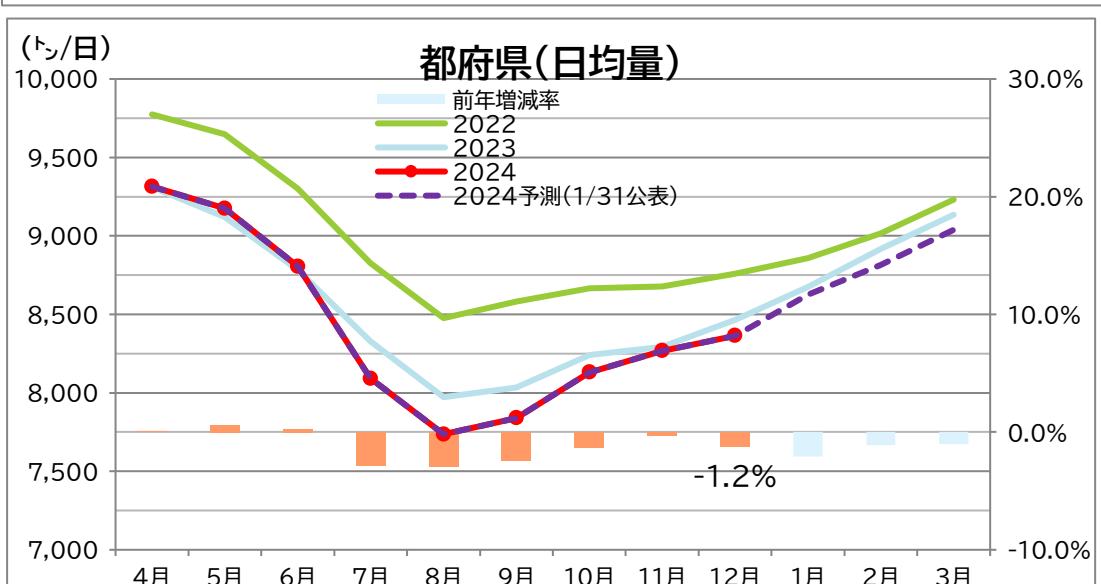
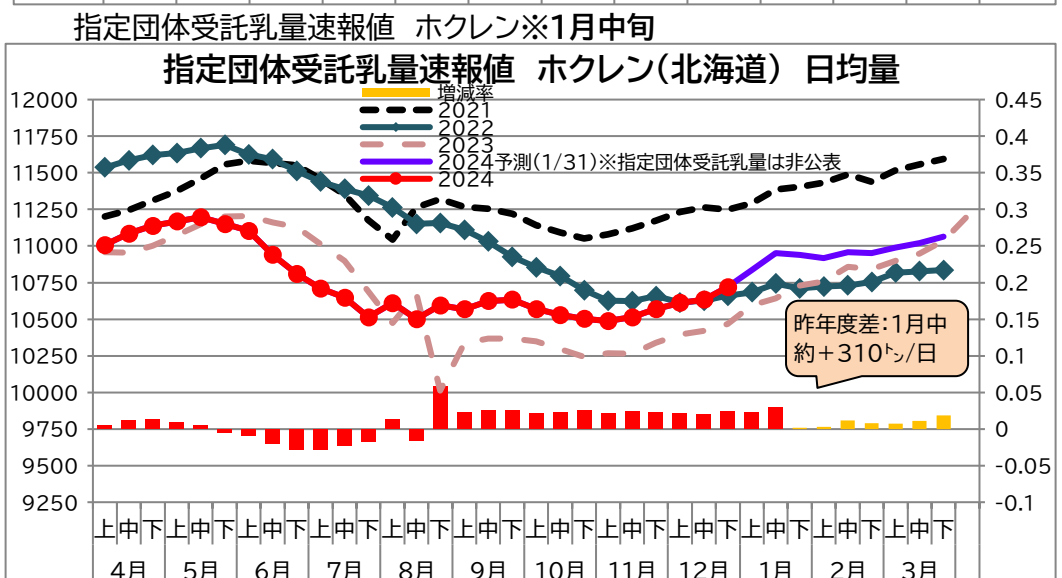
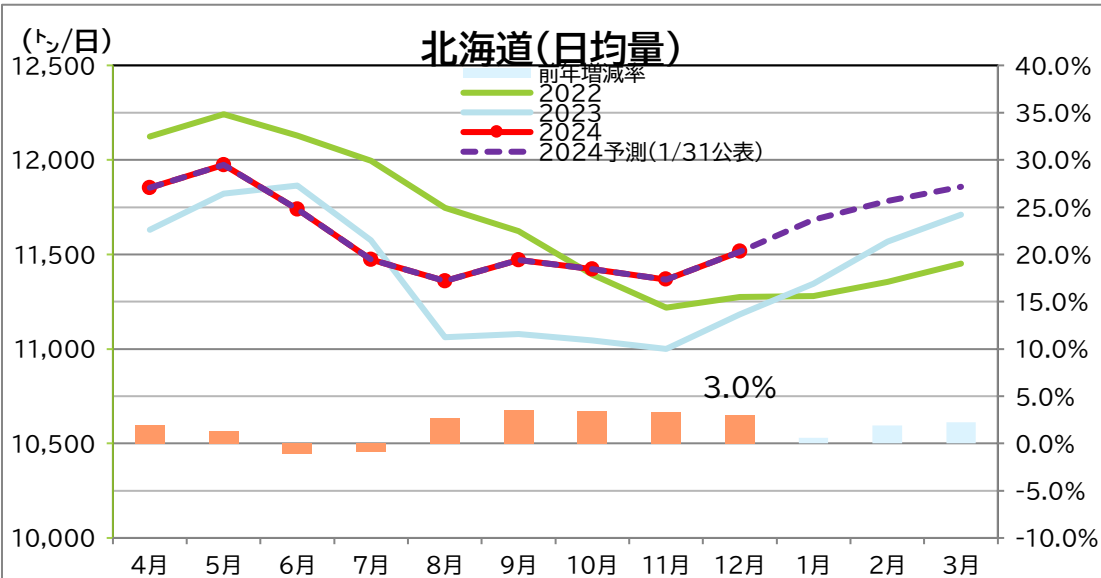
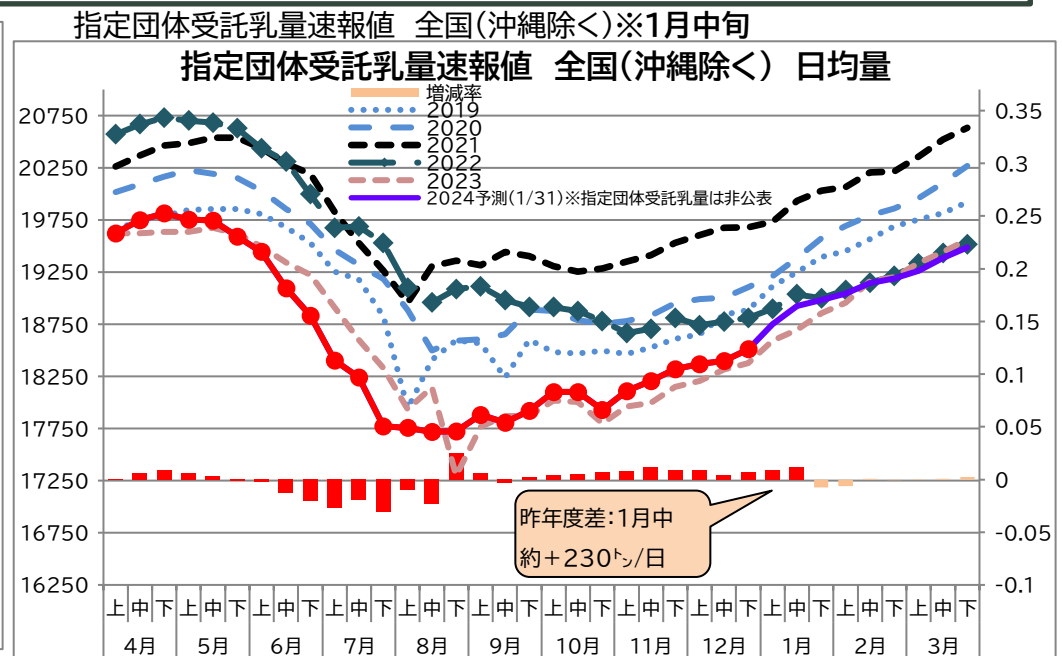
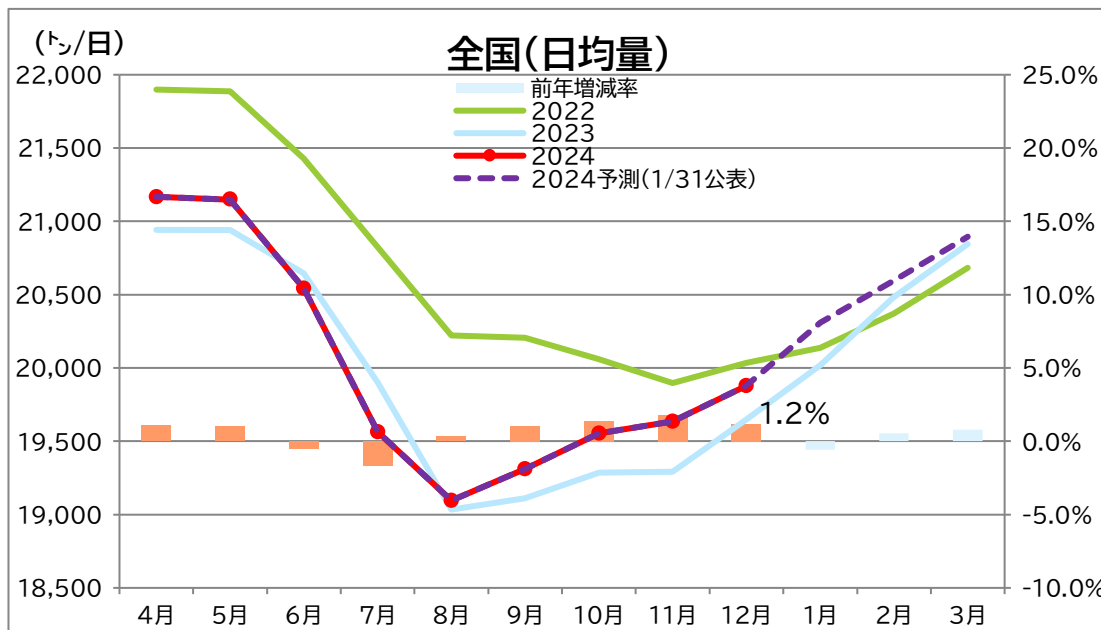
・牛乳類の1月の販売動向について、4品目すべて前年水準を下回った。気温が例年より低い期間が続いたことに加え、年末年始が最大9連休となった影響などで家庭内消費が押し下げられたと推察される。直近(1/27週)の販売動向は、牛乳が2週ぶりに前年水準を上回ったものの、成分調整牛乳、加工乳、乳飲料はいずれも前年割れとなり、牛乳類トータルは▲0.6%となった。牛乳類の前年割れは4週連続となる。はっ酵乳は、12週連続で3品目すべて前年水準を上回った。年末から好調が続いていたドリンクタイプは、拡大幅が縮小したものの前年超えを維持。大容量タイプは、22週連続の前年超え、2週連続の2ケタ増となった。今年は花粉が例年より早く飛散すると予測されている。花粉症対策として、はっ酵乳の消費が後押しされるか注目される。家庭用バターの販売個数は、3週連続で前年を下回った。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の生乳生産量は、全国616.3千ト(前年同月比101.2%)、北海道357.0千ト(同103.0%)、都府県259.3千ト(同98.8%)。

(2)9月に公表したJミルク予測値(全国614.3千ト、北海道353.1千ト、都府県261.1千ト)との比較は北海道と全国が上振れした一方、都府県はやや下振れとなった。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が1月中旬(最新、以下同)で同101.2%、都府県(沖縄除く)が同99.0%、北海道は同102.9%となった。

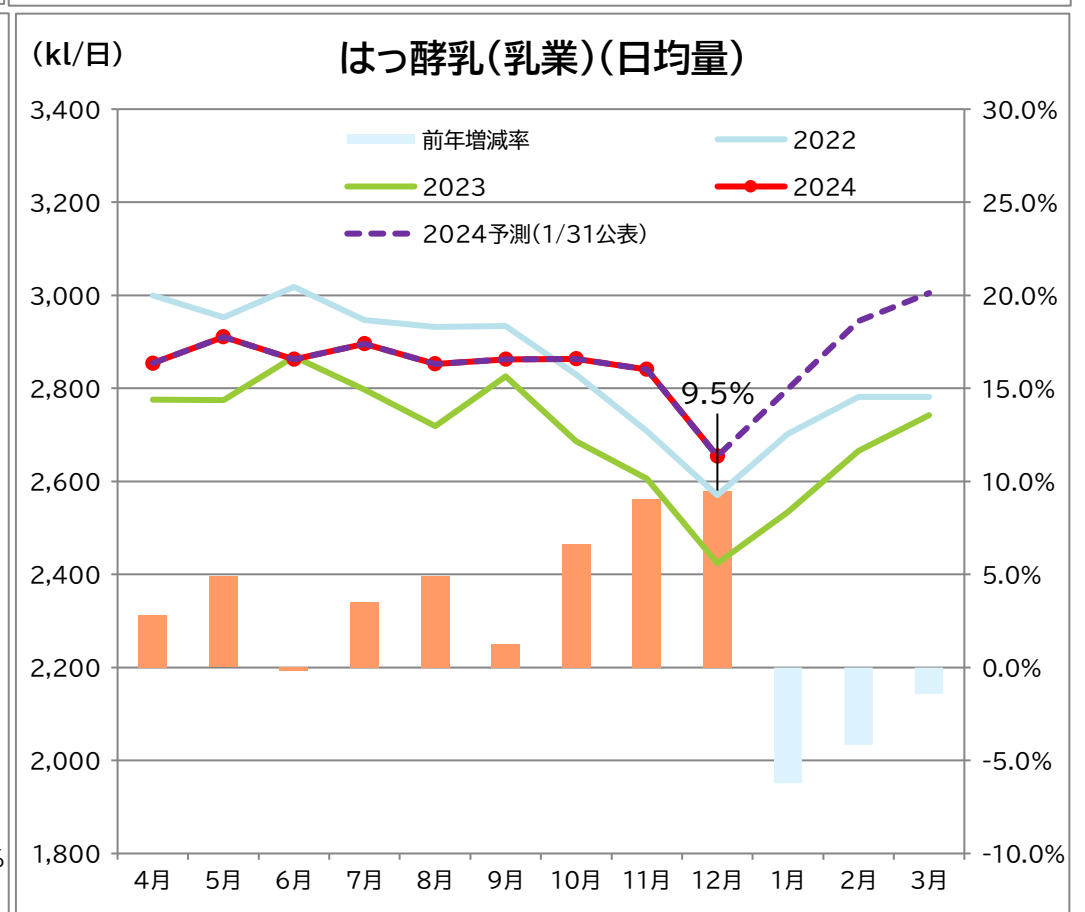
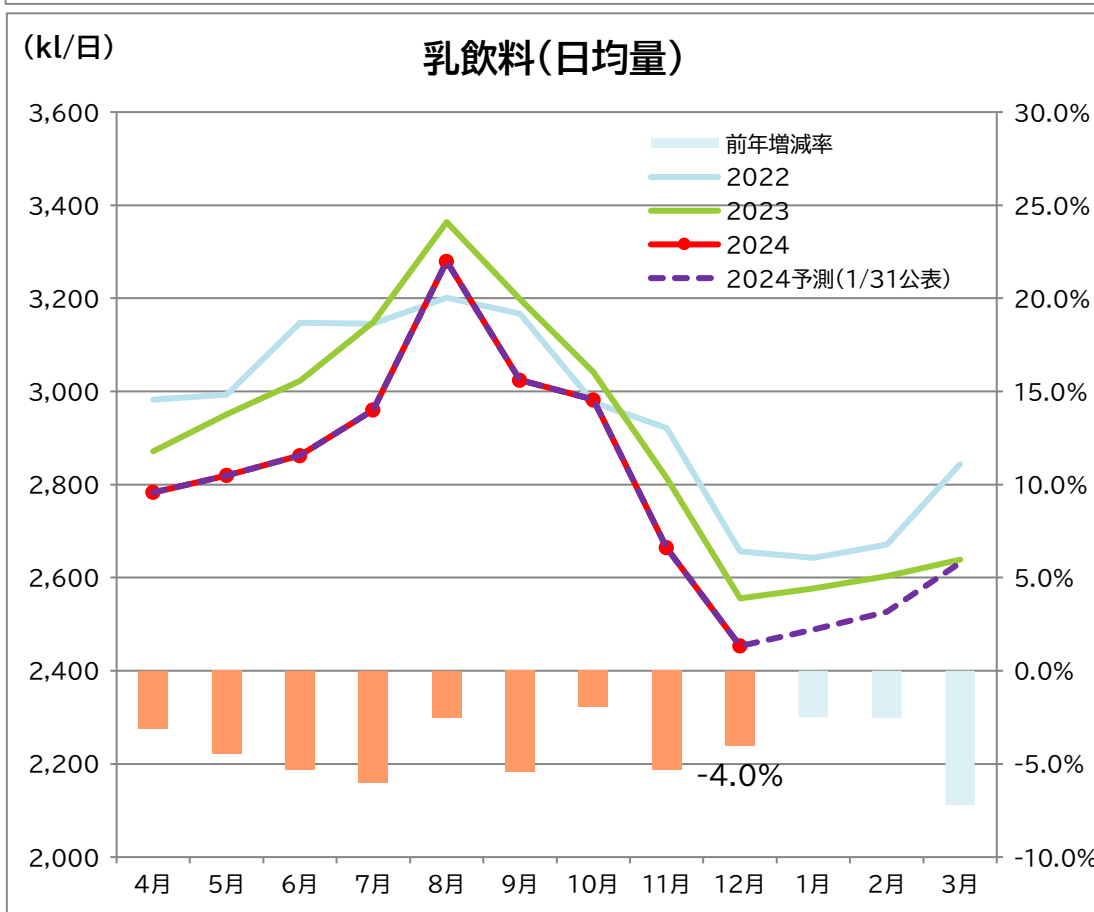
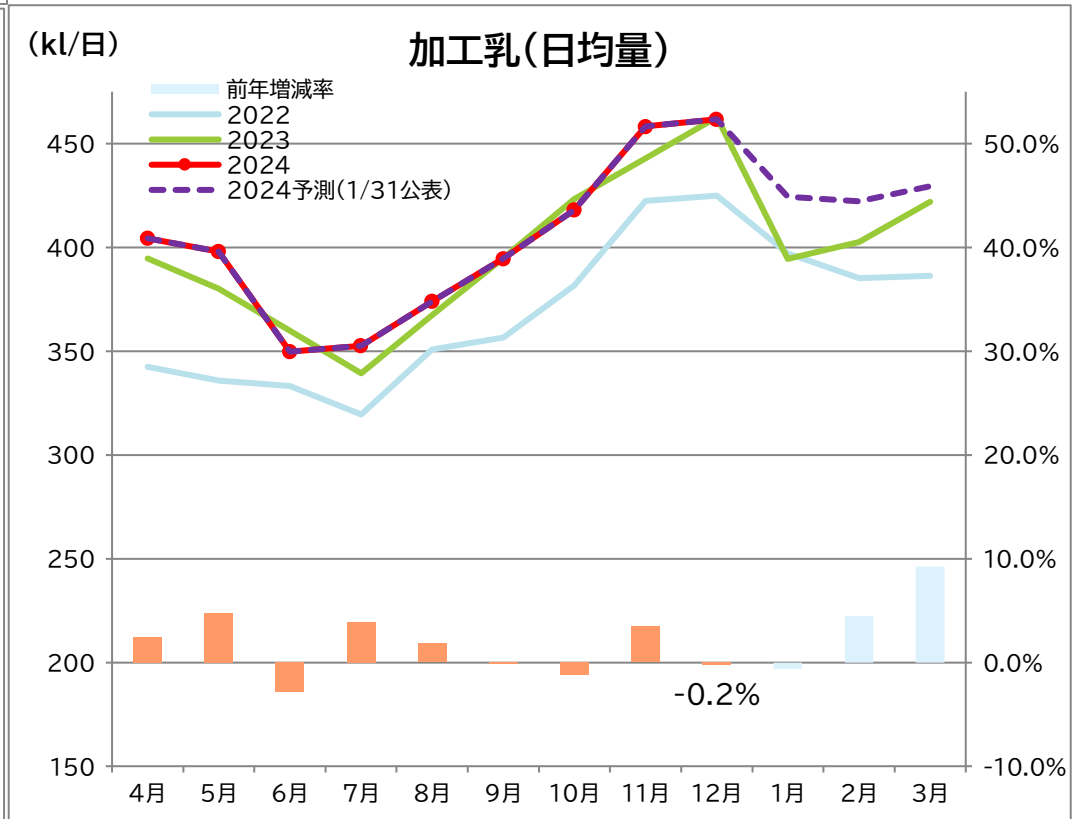
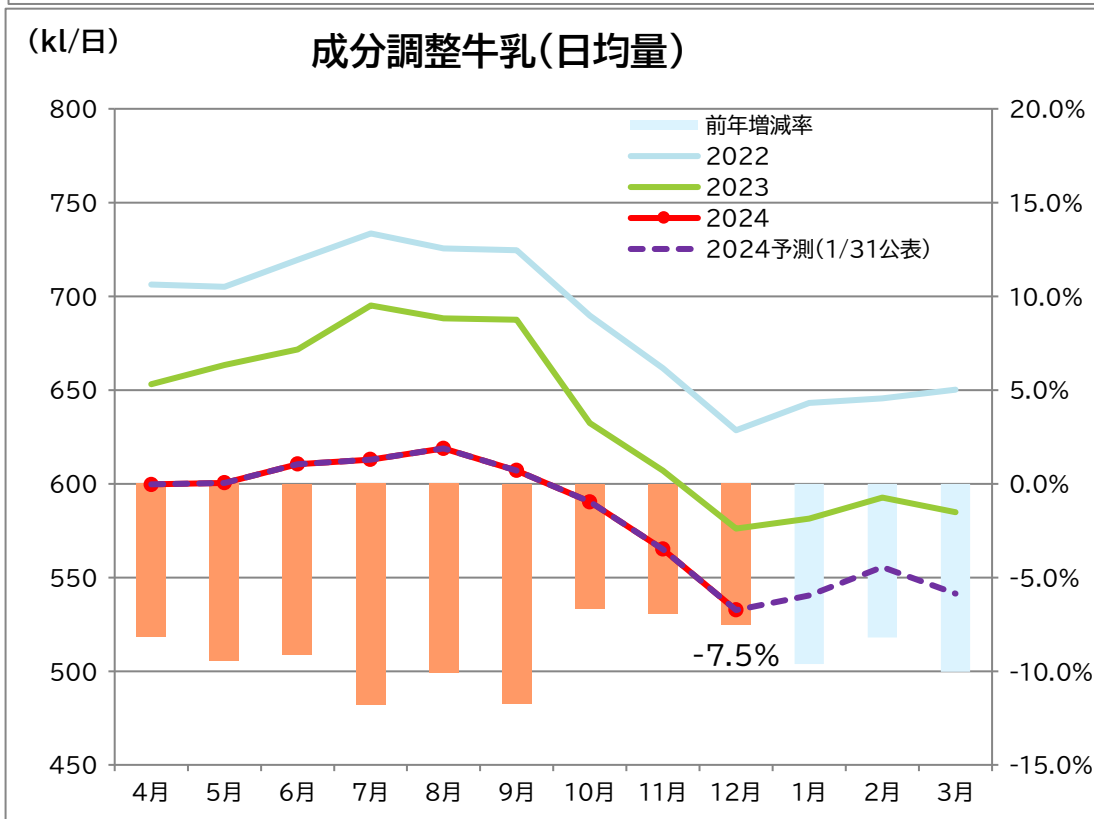
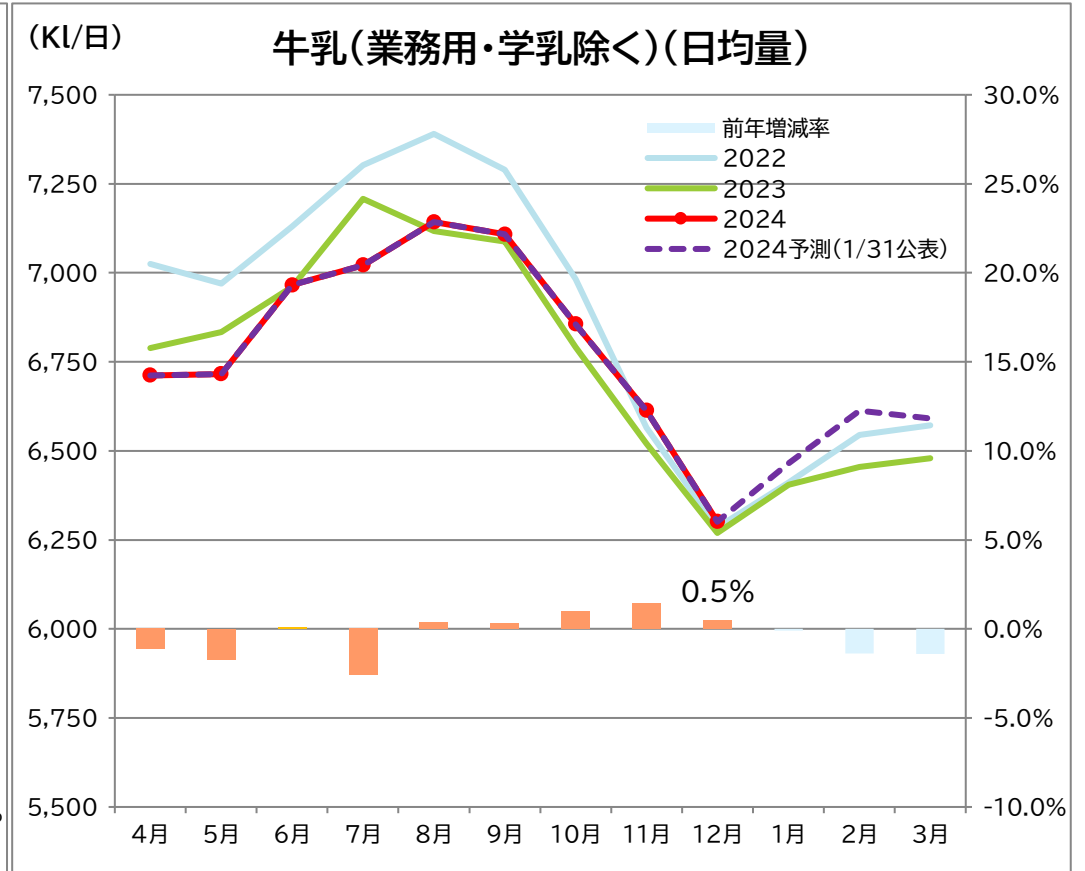
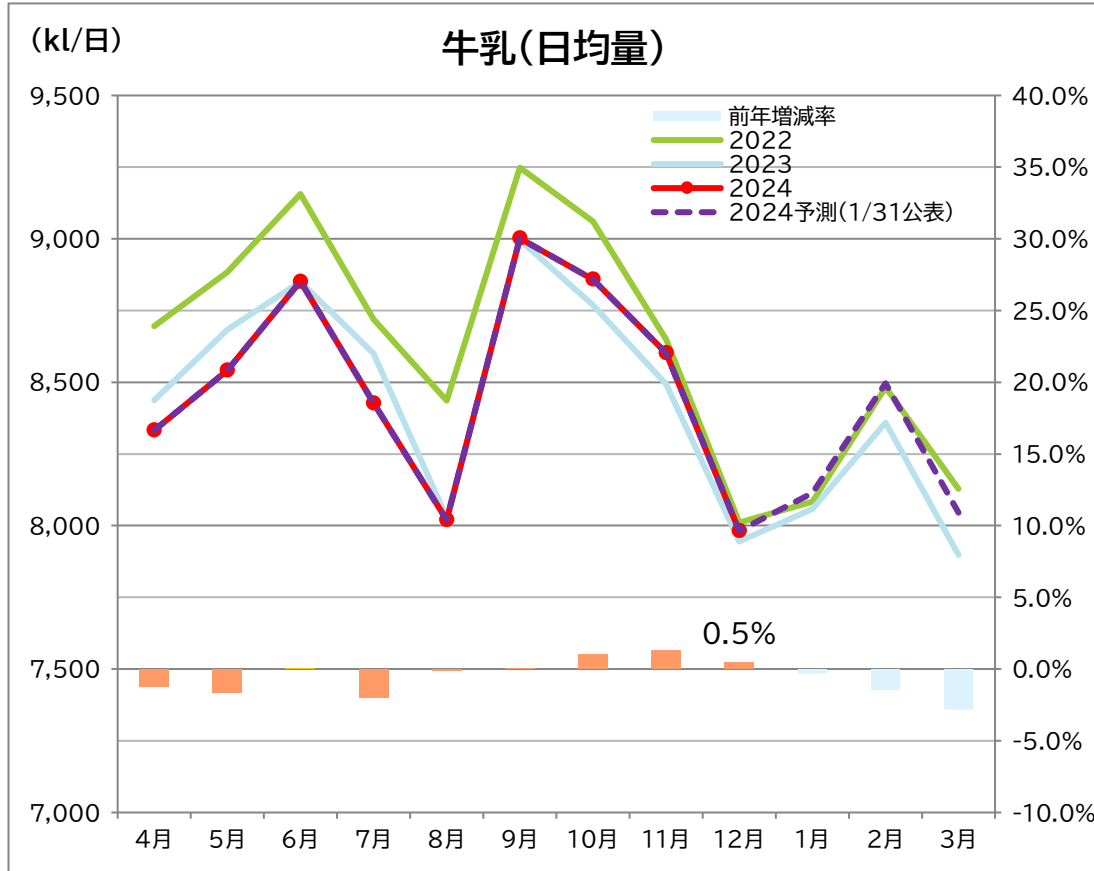


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の牛乳等生産量は、牛乳247.5千kl(前年同月比100.5%)、成分調整牛乳16.5千kl(同92.5%)、加工乳14.3千kl(同99.8%)、乳飲料76.1千kl(同96.0%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、354.3千kl(同99.0%)となり、25カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.5%、「業務用」は同96.4%、「学乳」は104.0%。

(3)はっ酵乳(乳業)は82.3千kl(同109.5%)と6カ月連続で前年を上回った。はっ酵乳(非乳業:11月実績)は99.4%となった。

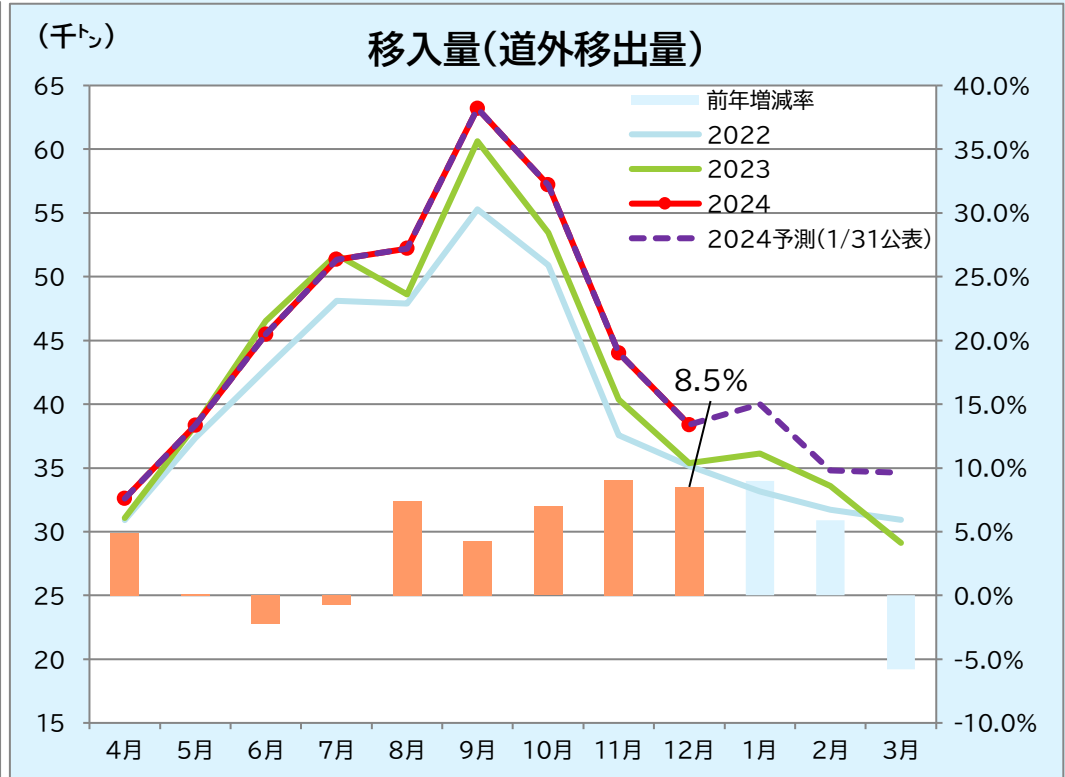
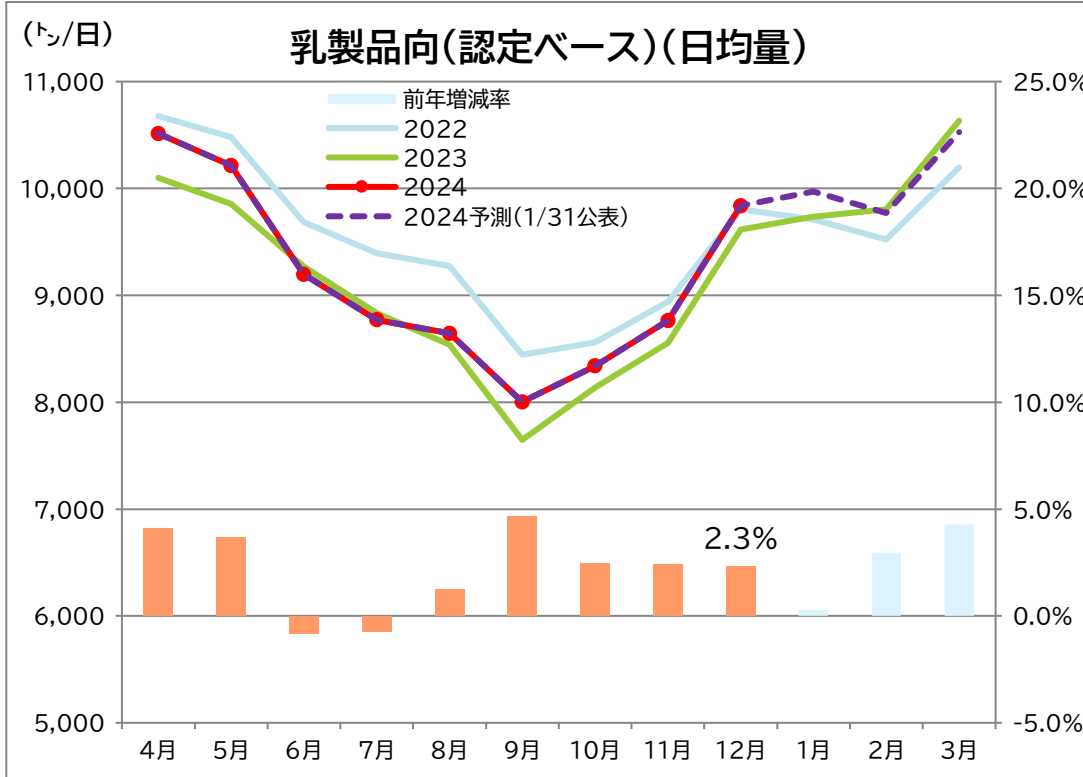
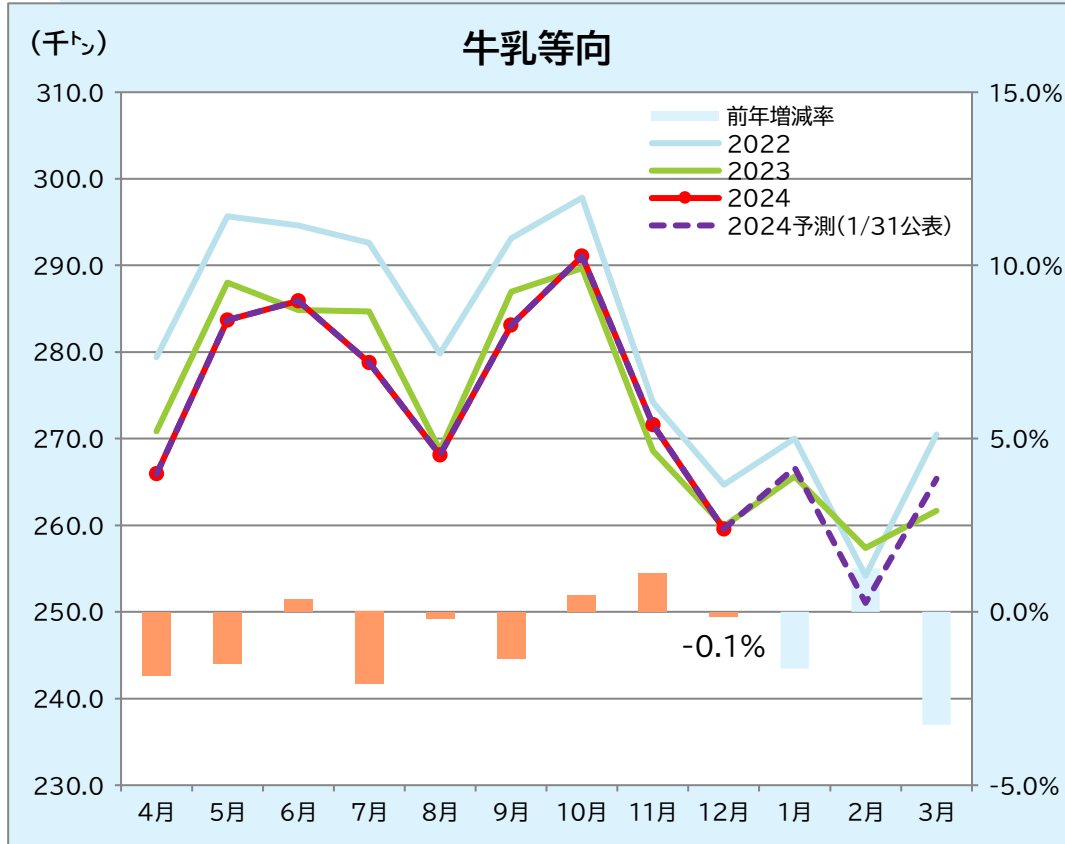
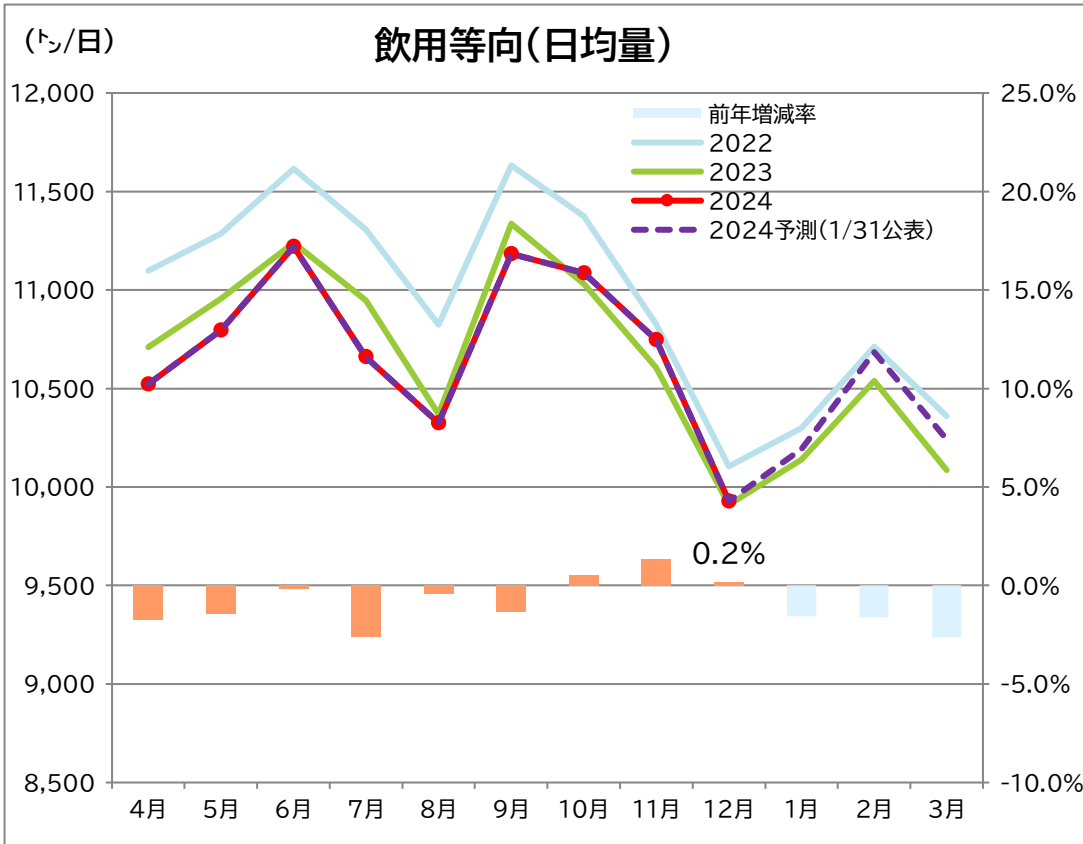
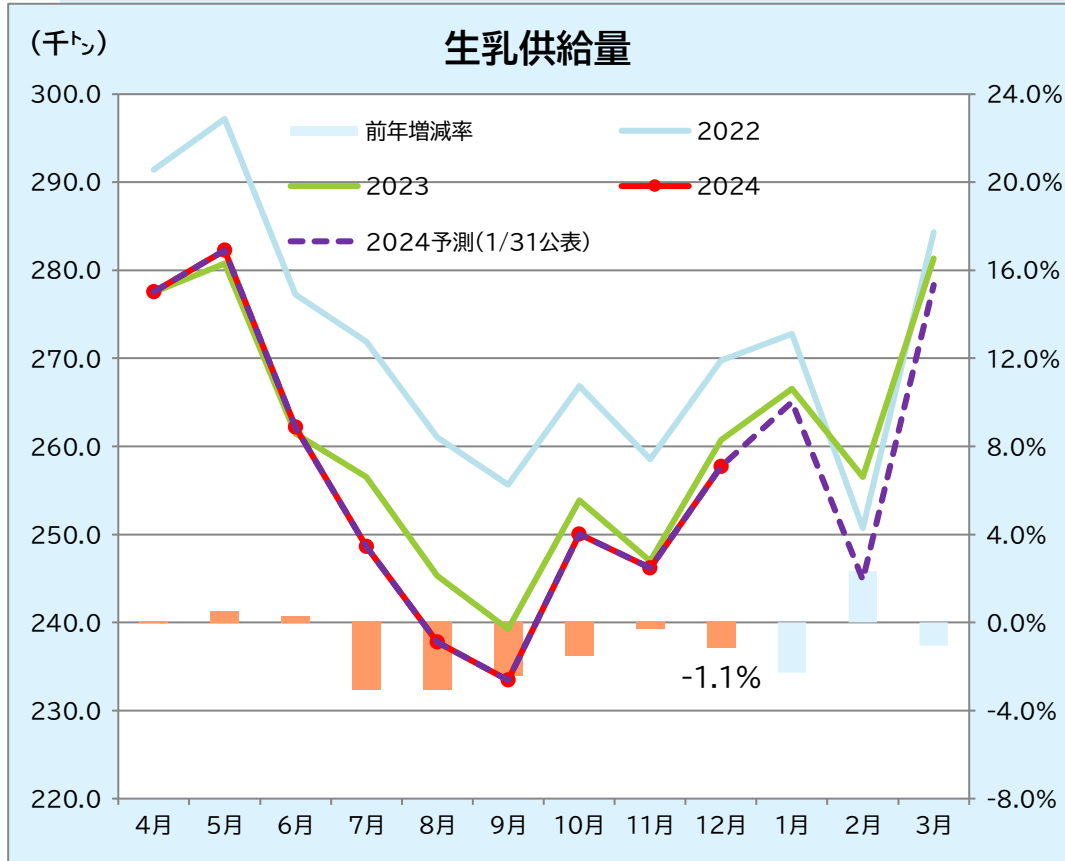
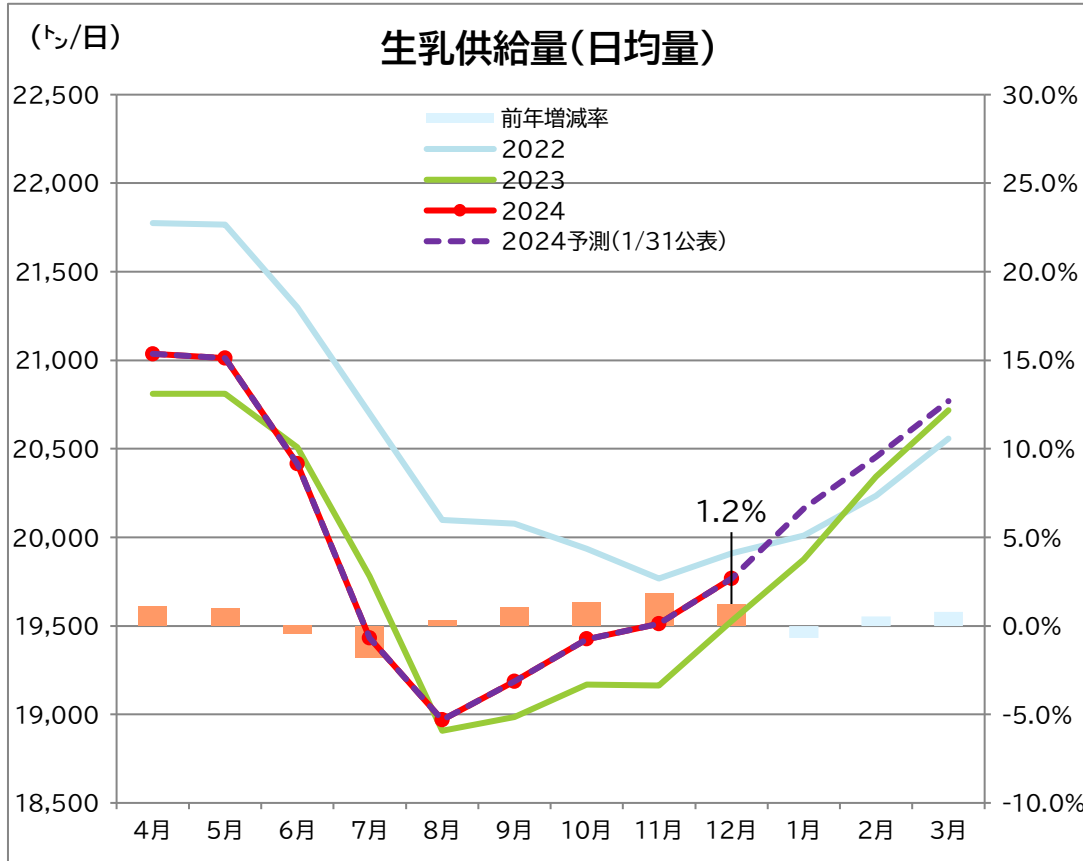


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)12月の生乳供給量は612.8千ト(前年同月比101.2%)、飲用等向307.8千ト(同100.2%)、乳製品向(認定ベース)305.0千ト(同102.3%)。
 (2)飲用等向が3か月連続で前年を上回ったが、生乳供給量も前年を上回り、結果として乳製品向も前年を上回った。
 (3)9月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:610.4千ト)は上振れ、飲用等向(予測値:305.8千ト)も上振れし、乳製品向(予測値:304.6千ト)はやや上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)12月は、生乳供給量257.7千ト(前年同月比98.9%)、牛乳等向259.5千ト(同99.9%)。
 (2)北海道からの移入量については38.4千ト(同108.5%)と前年を上回った。
 (3)9月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:259.4千ト)は下振れ、牛乳等向(予測値:258.7千ト)は上振れ、移入量(予測値:39.6千ト)も下振れとなった。



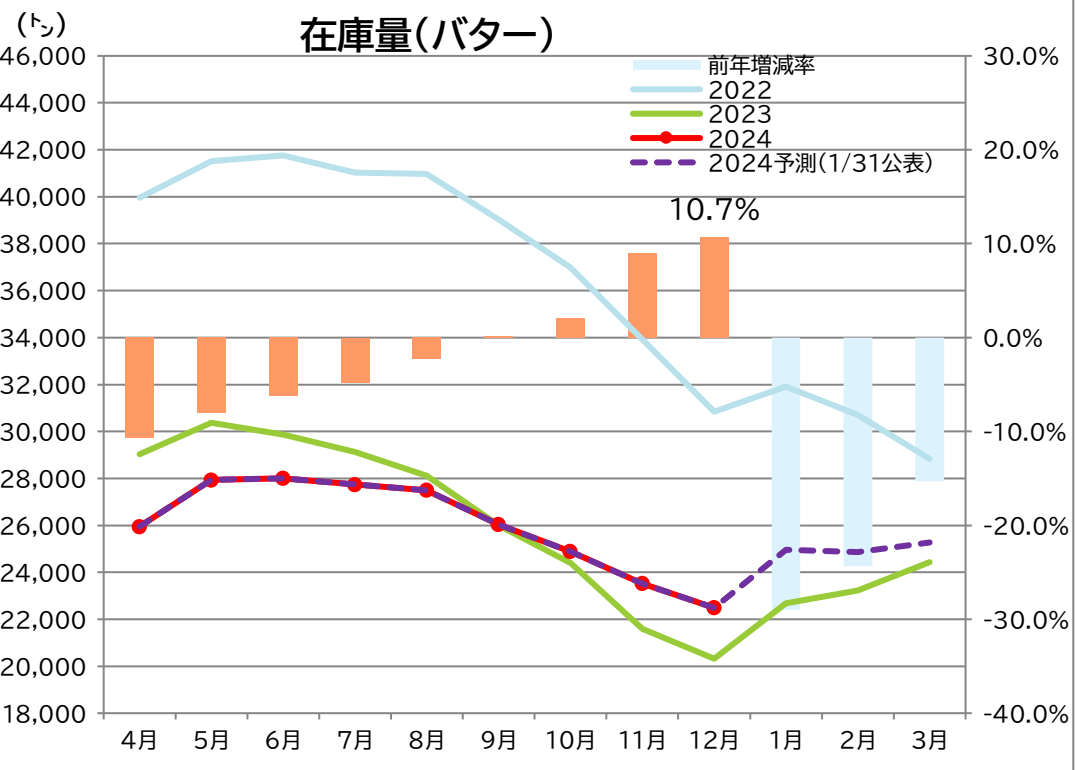
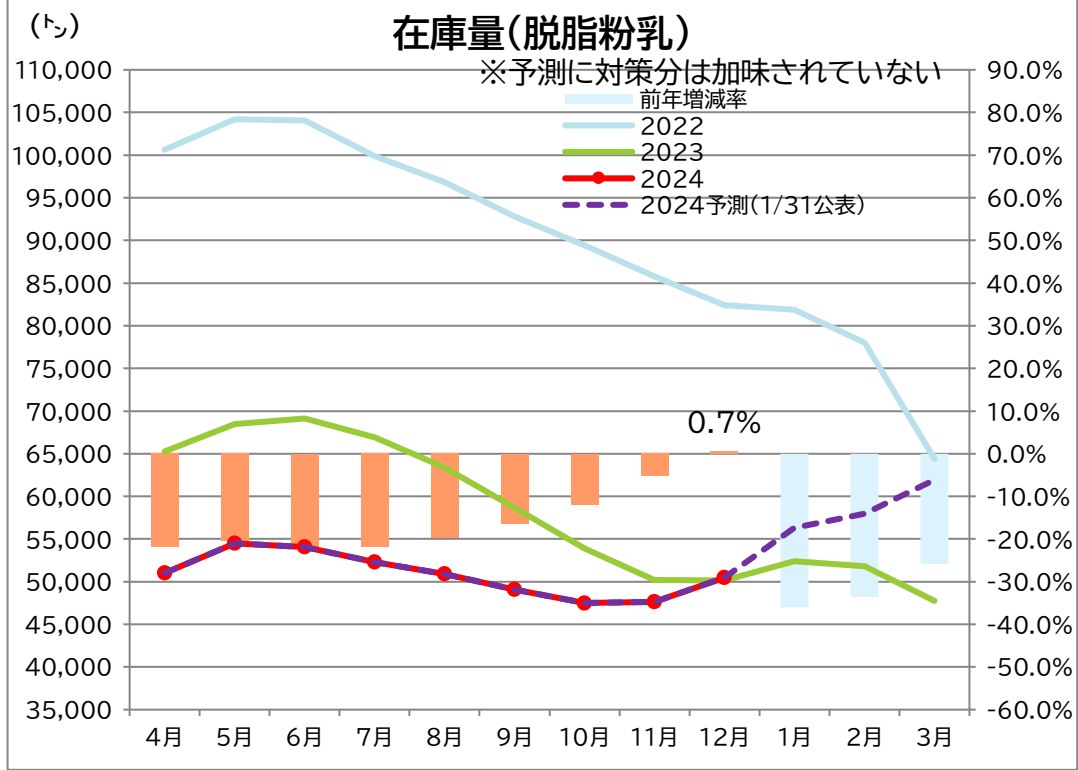
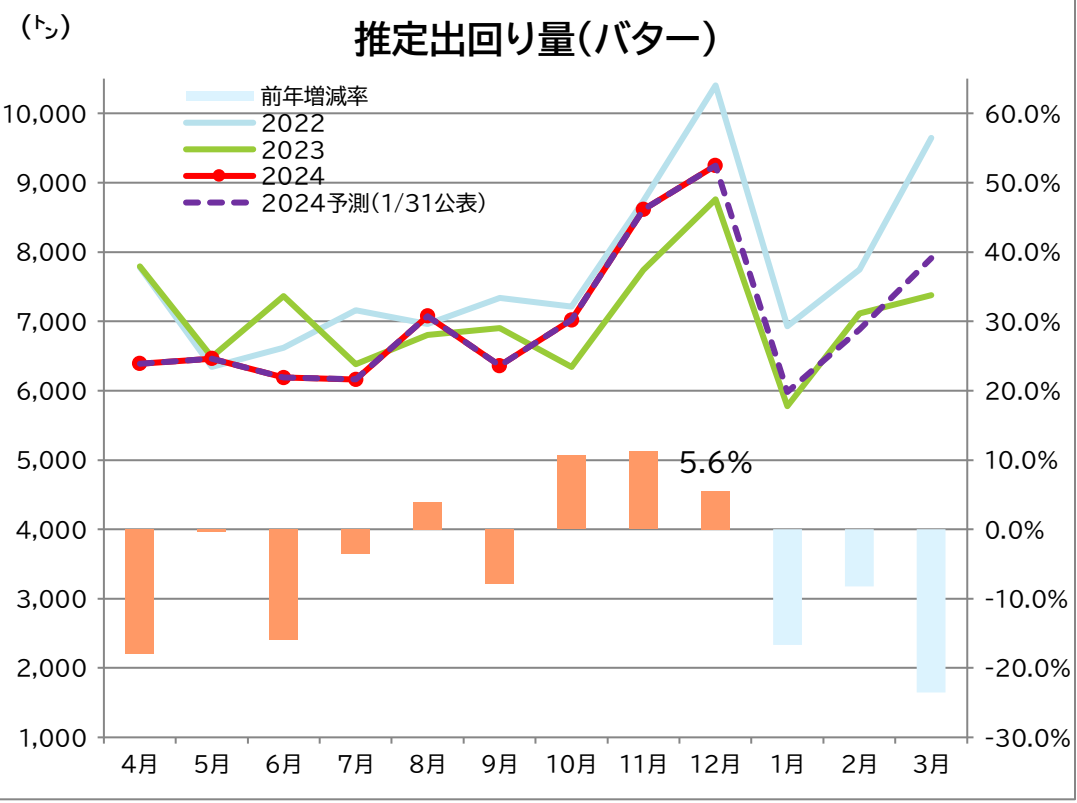
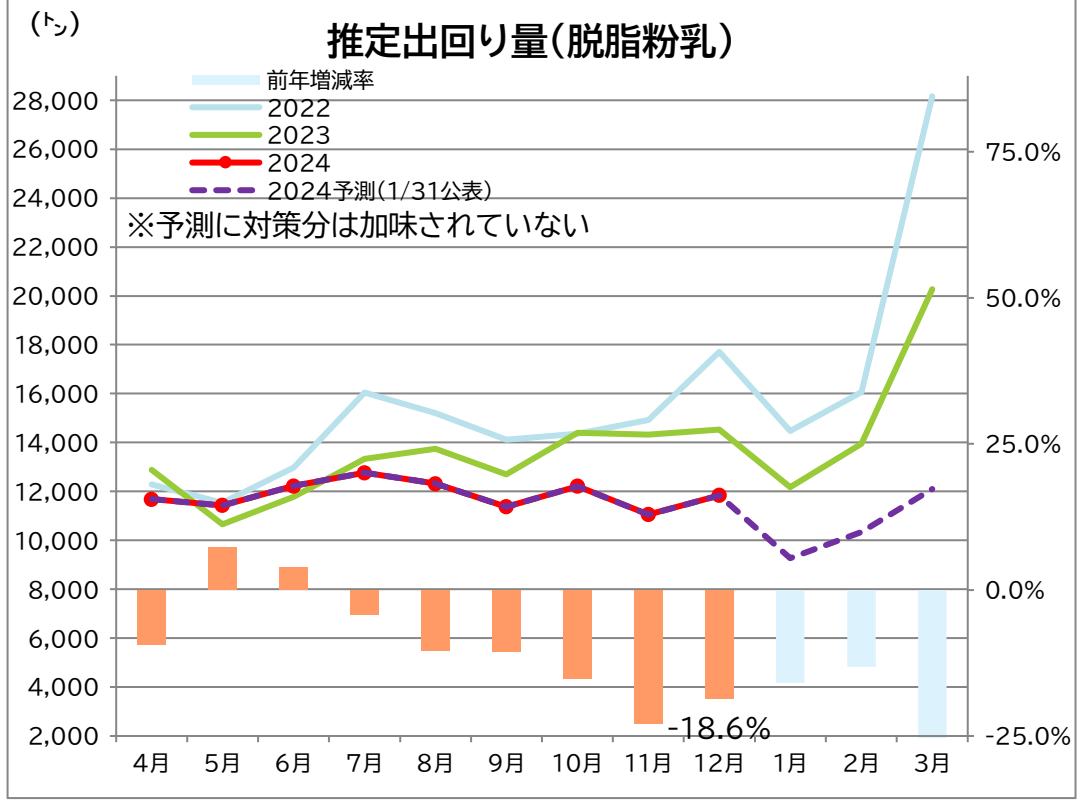
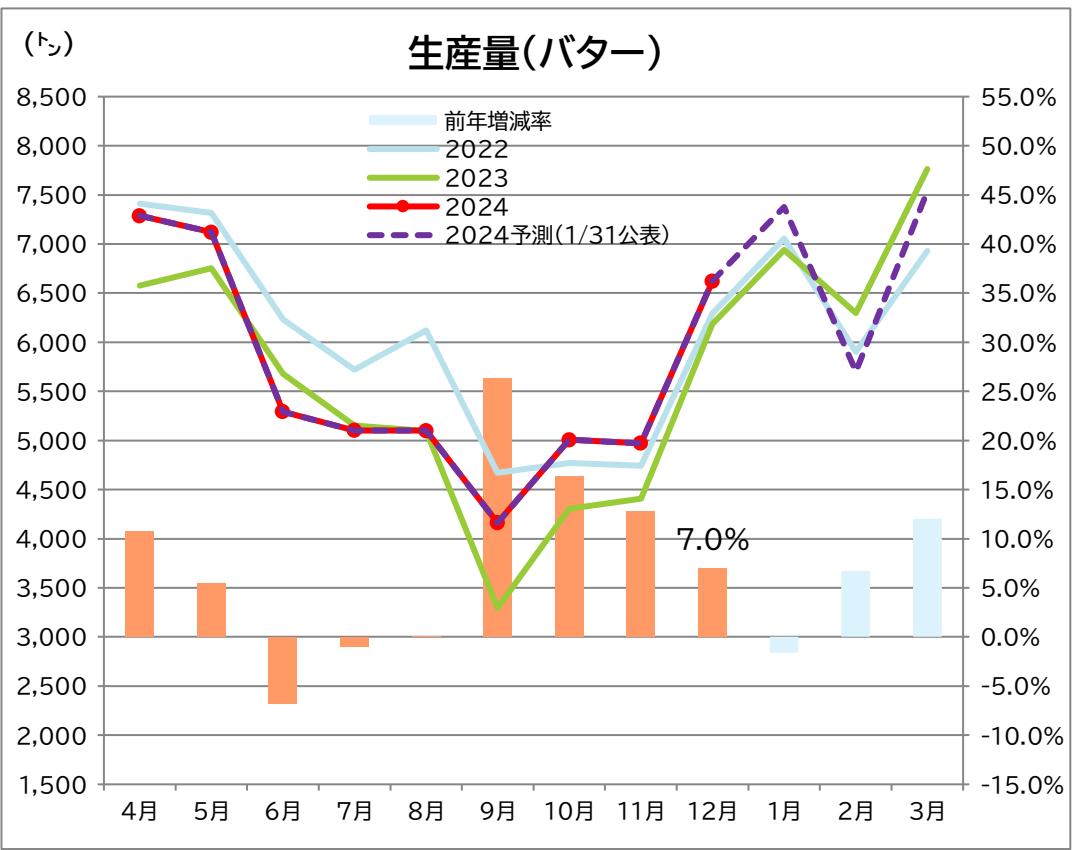
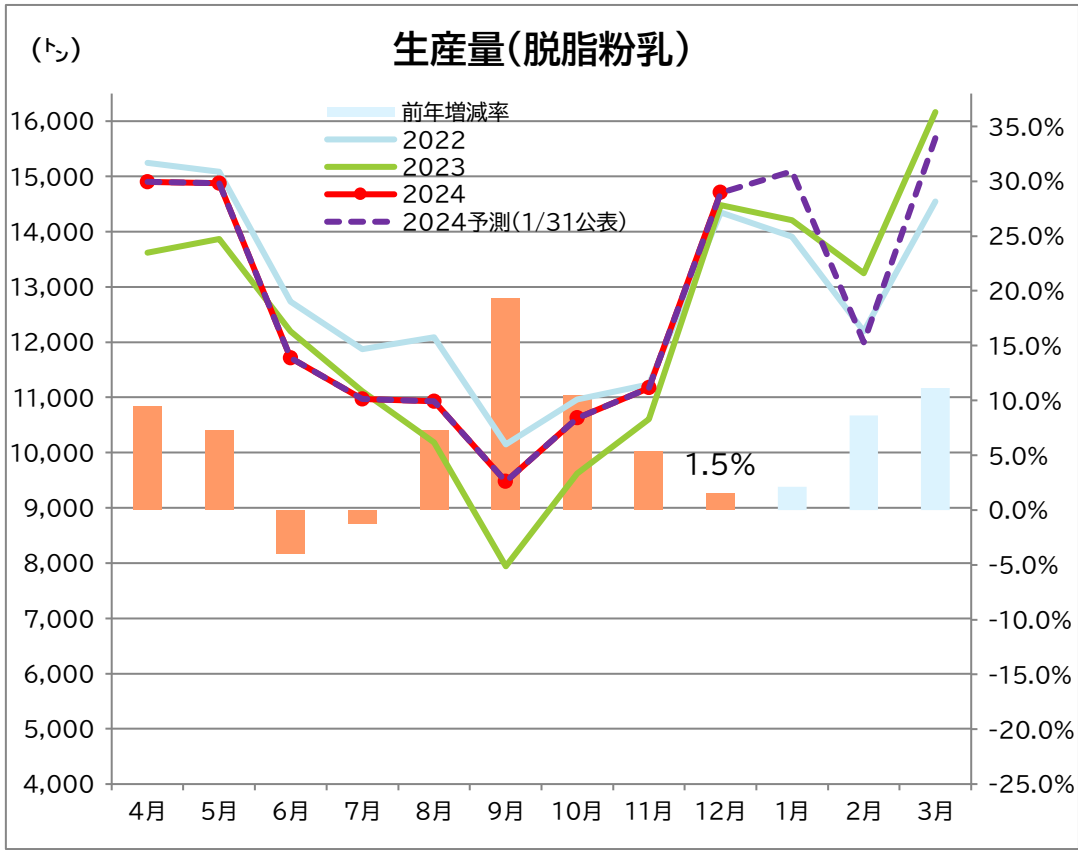
【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、12月の生産量は14.7千ト(前年同月101.5%)、推定出回り量は11.8千ト(同81.4%)となった。出回り量が生産量を下回ったため、在庫量は前月から2.9千ト程度増加し、50.5千ト(同100.7%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱バ仕向量の減少や在庫対策削減効果により9月以降4万ト台で推移していたが、12月は4か月ぶりに5万ト台となった。在庫量が前年同月比を上回るのは、2022年9月以来、約2年3か月ぶりとなる。

※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、12月の生産量は6.6千ト(同107.0%)、推定出回り量は9.2千ト(同105.6%)となった。バターの生産量が前年同期比を上回るのは5か月連続。国家貿易による輸入売渡分(約1.6千ト)も考慮すると在庫量は前月から約1.0千ト減少し22.5千ト(同110.7%)となった。在庫量は4カ月連続で前年超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)1月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比98.8%、成分調整牛乳:同96.0%、加工乳:同97.4%、乳飲料:同92.7%。牛乳類全体:同97.6%

【参考】2023年1月比…牛乳:95.4%、成分調整牛乳:79.4%、加工乳:101.1%、乳飲料:89.7%(牛乳類トータル:93.5%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(1/27週)の販売個数は、牛乳:前年同期比100.8%、成分調整牛乳:同96.2%、加工乳:同98.6%、乳飲料:同94.2%。牛乳類トータルでは同99.4%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

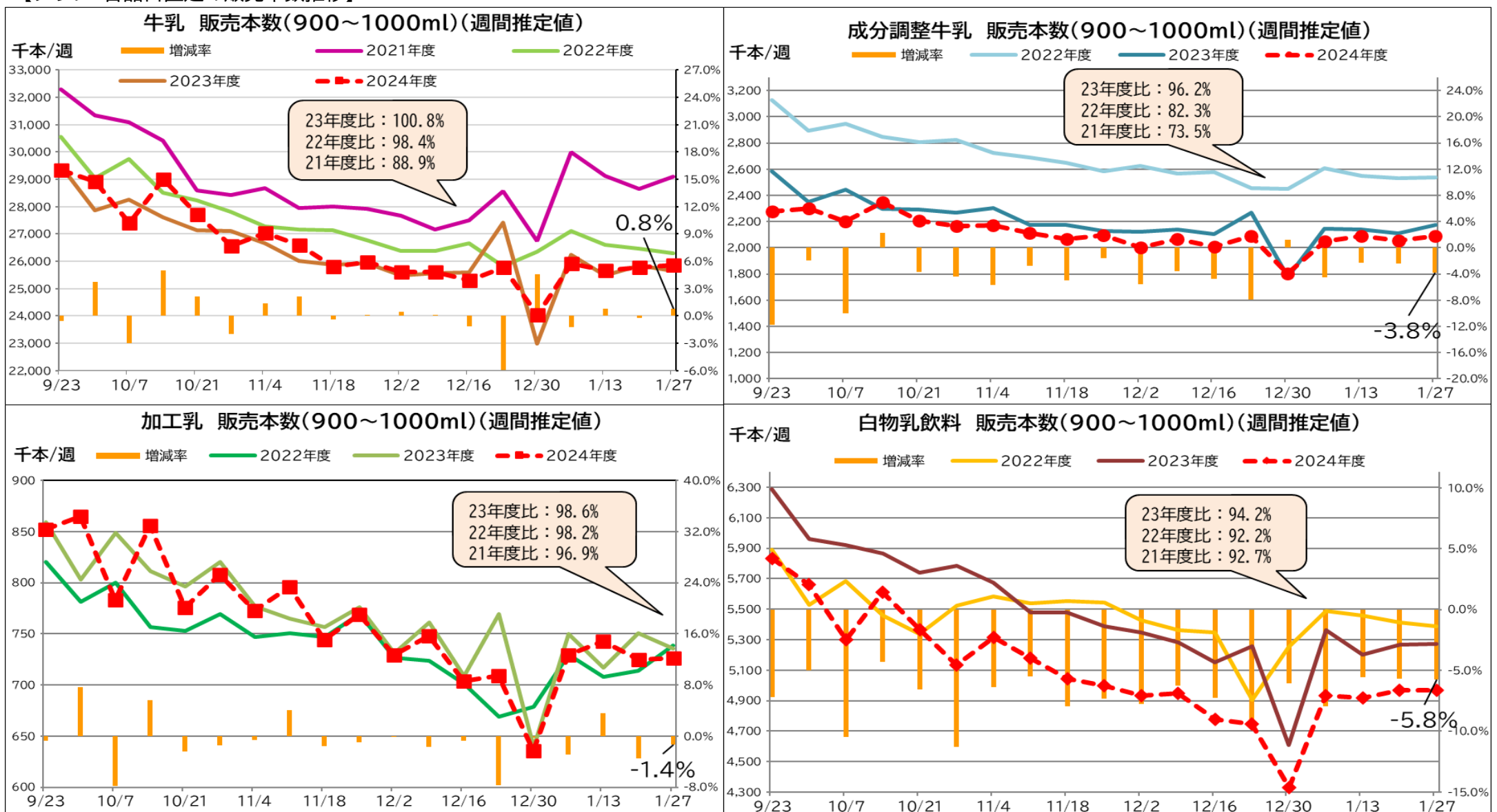
単位:千個、円

品目	区分	2024/8-	2024/9-	2024/10-	2024/11-	2024/12-	2025/1-	2025/1- 2022/10価格差	2025/1- 2023/3価格差	2025/1- 2023/7価格差
		販売個数	175,296	165,980	161,140	147,094	149,786	142,418		
トータル	販売個数前年比	99.1	97.6	98.6	98.9	98.3	97.6	33.2	18.1	16.3
	販売単価	216.8	216.1	216.0	215.8	216.3	216.3			
牛乳	販売個数	135,341	127,378	123,650	112,767	115,582	109,654			
	販売個数前年比	100.7	99.3	100.3	100.5	99.6	98.8	35.2	18.9	18.1
成分調整牛乳	販売個数	10,338	9,883	9,938	9,065	9,170	8,702			
	販売個数前年比	89.9	90.6	95.4	96.0	95.5	96.0	32.1	16.4	12.9
加工乳	販売個数	3,831	3,646	3,568	3,311	3,280	3,094			
	販売個数前年比	107.8	101.5	97.7	100.4	98.4	97.4	28.5	18.8	7.8
乳飲料	販売個数	25,786	25,073	23,984	21,951	21,754	20,968			
	販売個数前年比	94.0	92.0	91.8	92.2	92.8	92.7	23.1	12.5	8.8
	販売単価	173.3	172.8	173.0	172.7	173.4	172.6			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	12.9-	12.16-	12.23-	12.30-	1.6-	1.13-	1.20-	1.27-	25.1.27- 22.10.24 価格差	25.1.27- 23.3.20 価格差	25.1.27- 23.7.24 価格差
		販売個数	33,366	32,798	33,332	30,795	33,631	33,425	33,528	33,647		
トータル	販売個数前年比	98.9	97.7	93.4	102.6	97.5	99.7	98.7	99.4	32.6	17.7	15.3
	販売単価	215.9	216.1	217.3	217.5	216.5	216.1	215.7	215.8			
牛乳	販売個数	25,606	25,309	25,785	24,031	25,923	25,678	25,780	25,865			
	販売個数前年比	100.1	98.9	94.1	104.6	98.7	100.8	99.8	100.8	34.5	18.2	17.0
成分調整牛乳	販売個数	2,064	2,007	2,088	1,801	2,047	2,088	2,057	2,090			
	販売個数前年比	96.4	95.3	92.1	101.2	95.5	97.7	97.5	96.2	31.3	16.4	11.8
加工乳	販売個数	748	704	709	636	729	743	725	726			
	販売個数前年比	98.3	99.3	92.3	99.6	97.1	103.6	96.5	98.6	28.1	17.8	7.2
乳飲料	販売個数	4,949	4,778	4,749	4,327	4,932	4,917	4,966	4,967			
	販売個数前年比	93.7	92.8	90.3	93.9	92.0	94.5	94.3	94.2	23.1	13.3	8.6
	販売単価	173.0	173.1	174.0	172.9	173.0	172.3	172.4	172.8			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

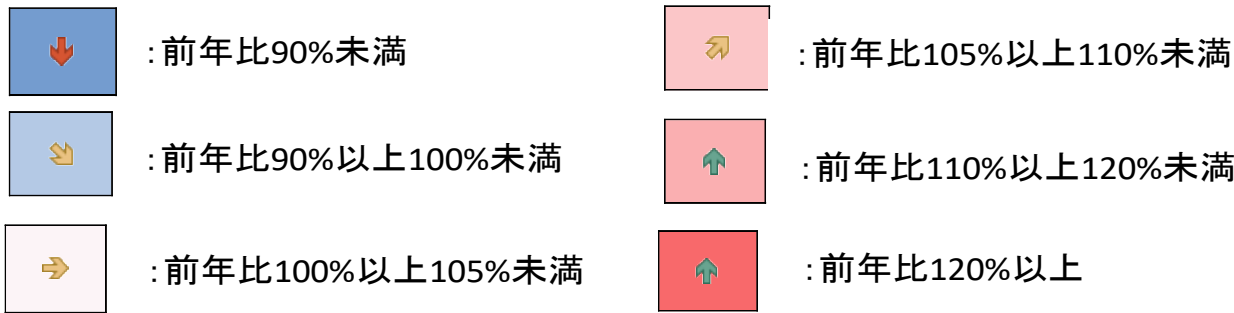
直近(1/27週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比105%以上、個食タイプ(70~130ml):同100%以上、大容量タイプ(350~500ml):同110%以上。はっ酵乳全体としては、前年を上回る推移となっている。(3品目合計前年同期比105%以上)。

(2)販売個数について、前週(1/20週)との比較では、ドリンクタイプと個食タイプが減少した一方、大容量タイプは増加した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

品目	12.9-	12.16-	12.23-	12.30-	1.6-	1.13-	1.20-	1.27-
ドリンクタイプ	→	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↗
個食タイプ	→	↗	→	→	→	→	↗	→
大容量タイプ	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↑	↑



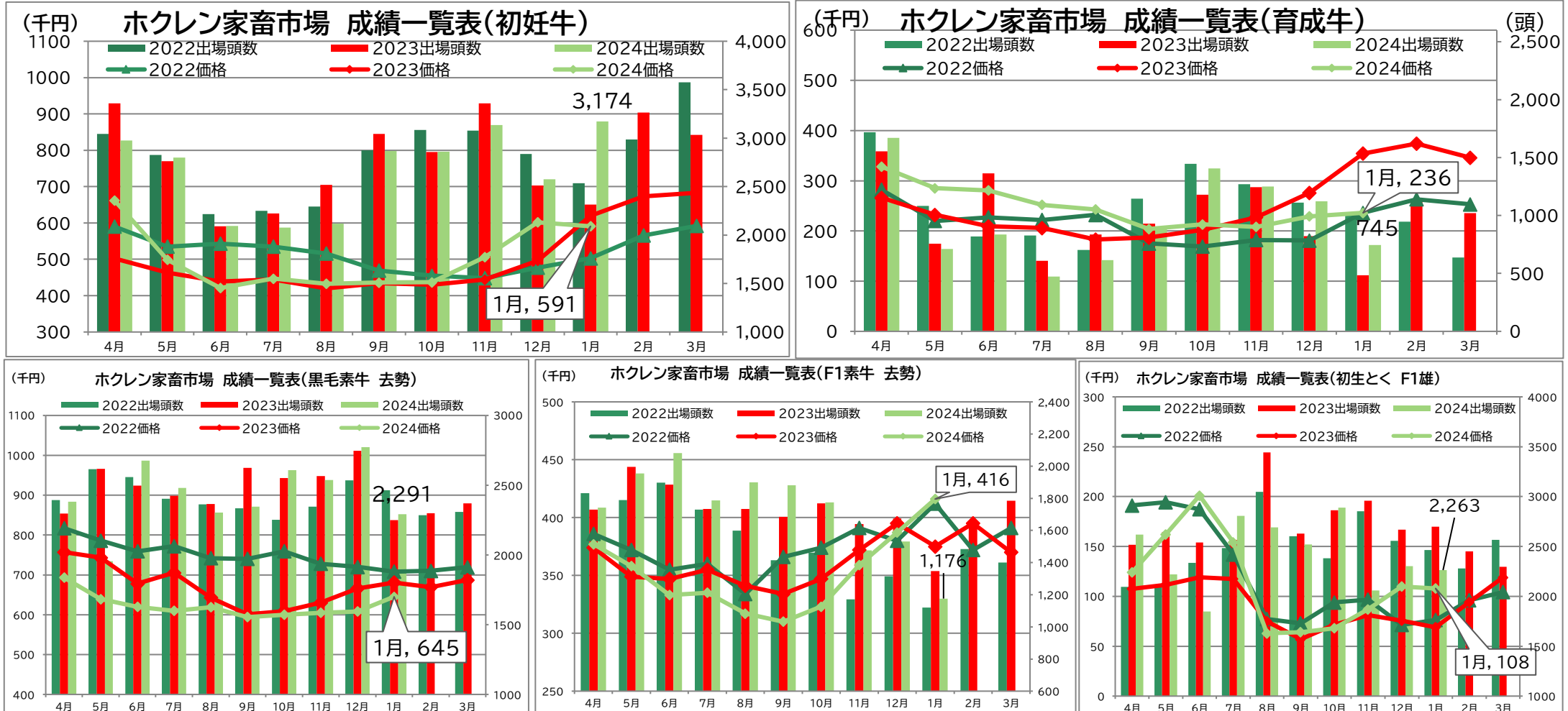
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)1月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は591千円(前年同期比95.3%)、育成牛価格は236千円(同66.7%)、和牛素牛(去勢)価格645千円(同94.7%)、F1素牛(去勢)価格は416千円(同110.9%)。初妊牛は2カ月ぶりに50万円以上に下落、育成牛は9カ月連続で20万円台となった。ホル初生(雄)価格は29千円(同71.4%)と、2カ月連続で20千円を上回ったものの低水準で推移している(グラフ無し)。

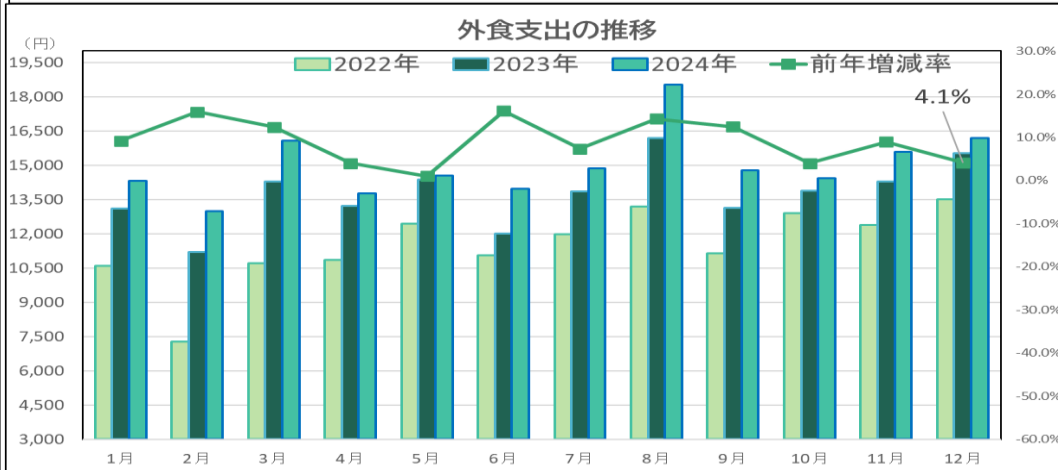
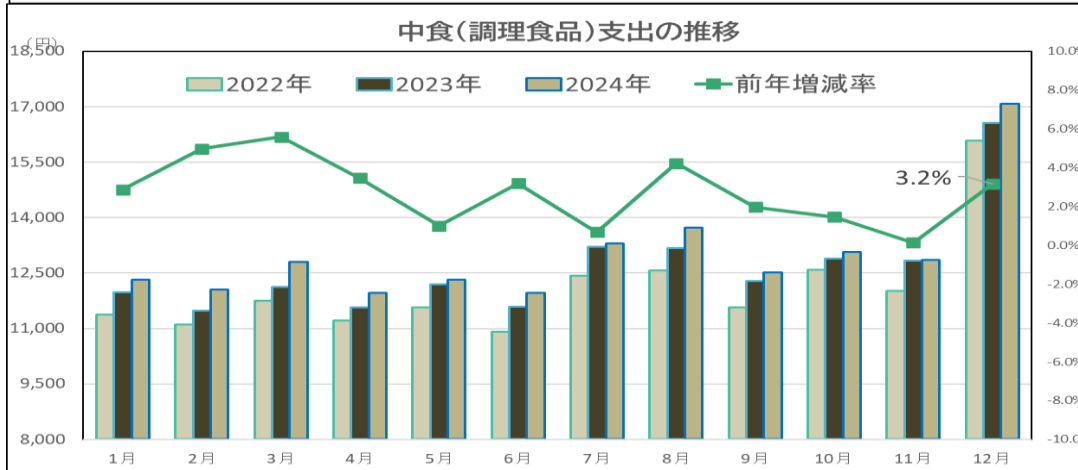
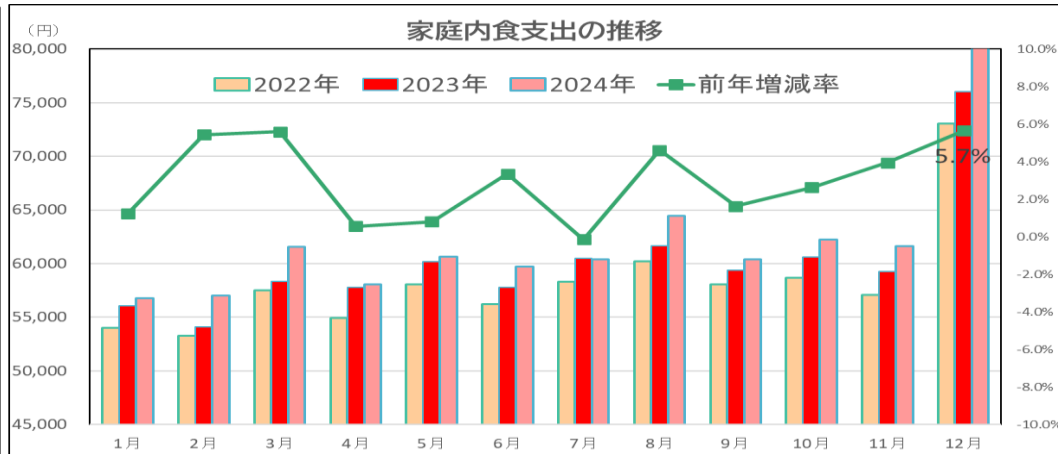
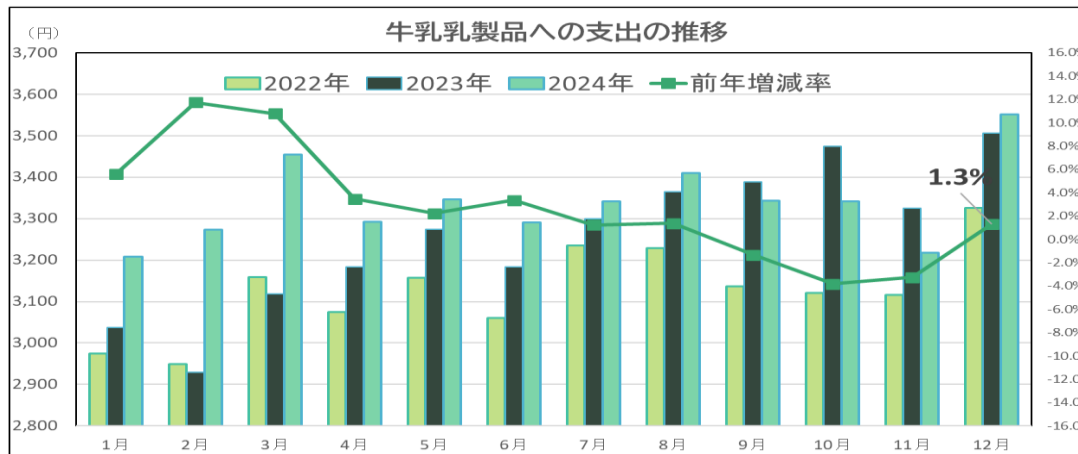
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同137.2%、育成牛:同154.2%、F1初生(雄):同83.9%、和牛素牛(去勢):同101.9%、F1素牛(去勢):同87.3%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

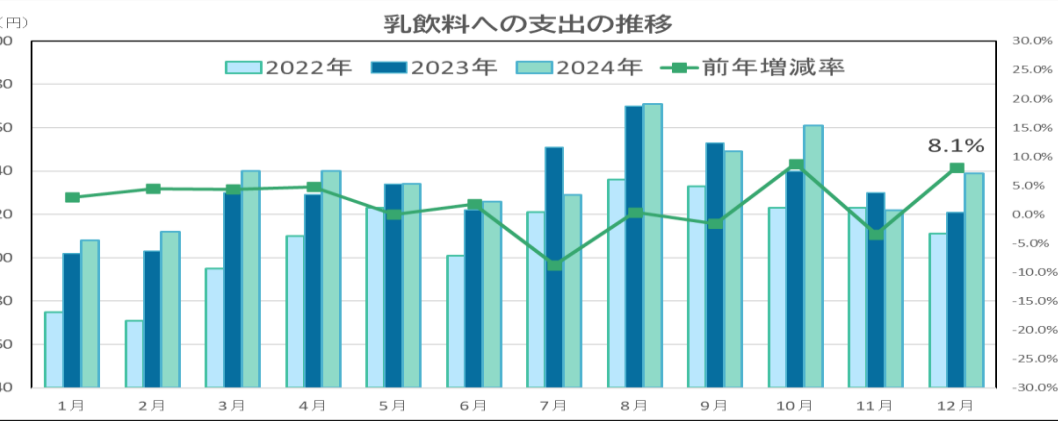
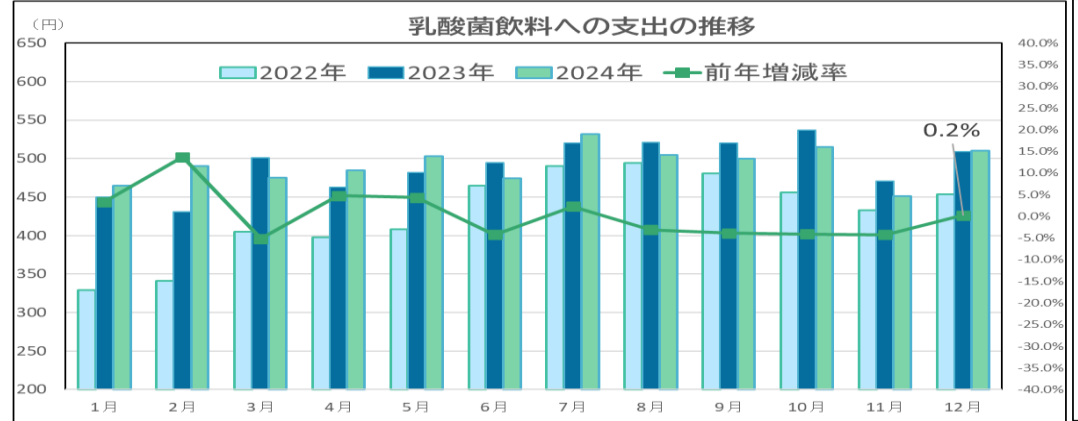
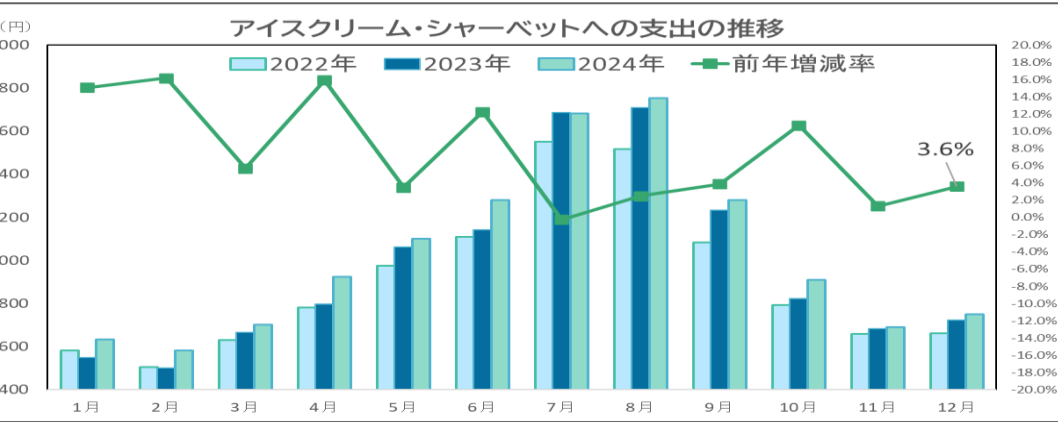
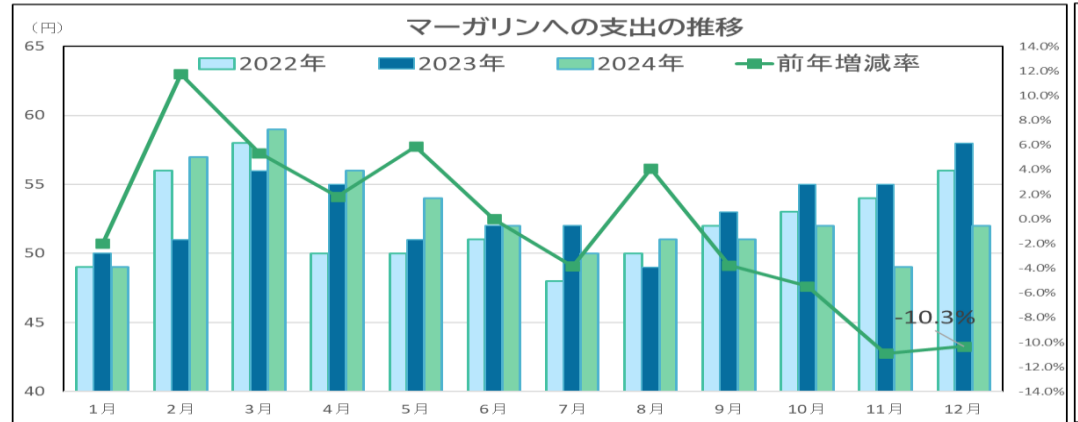
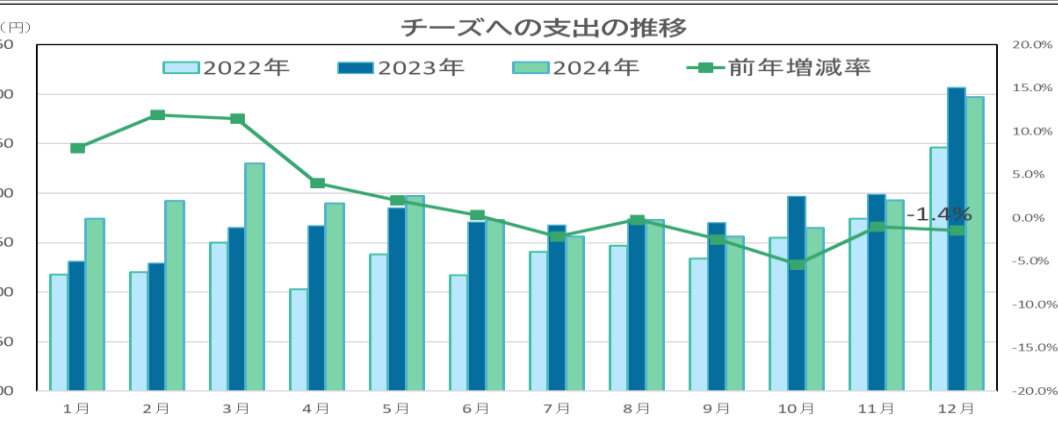
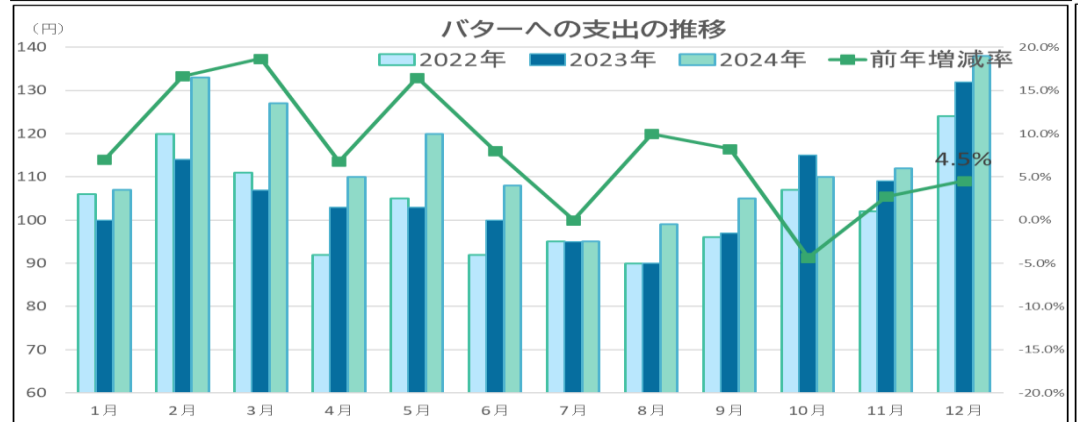
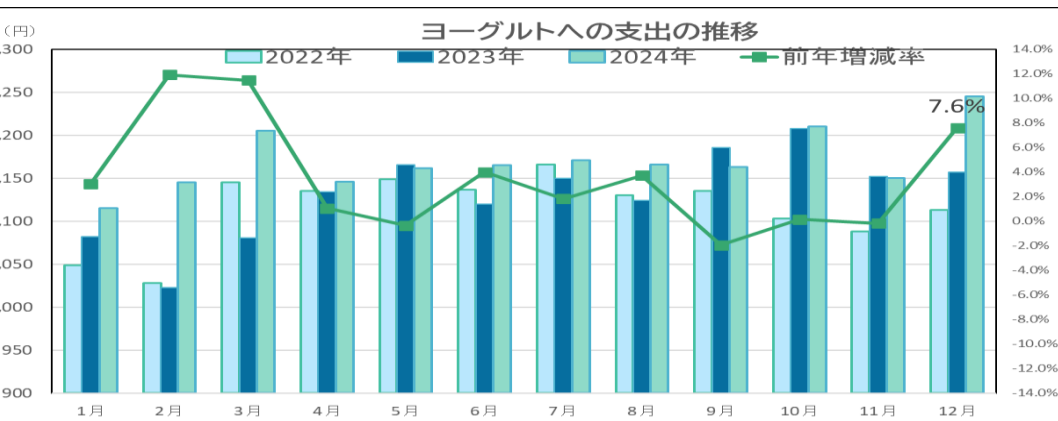
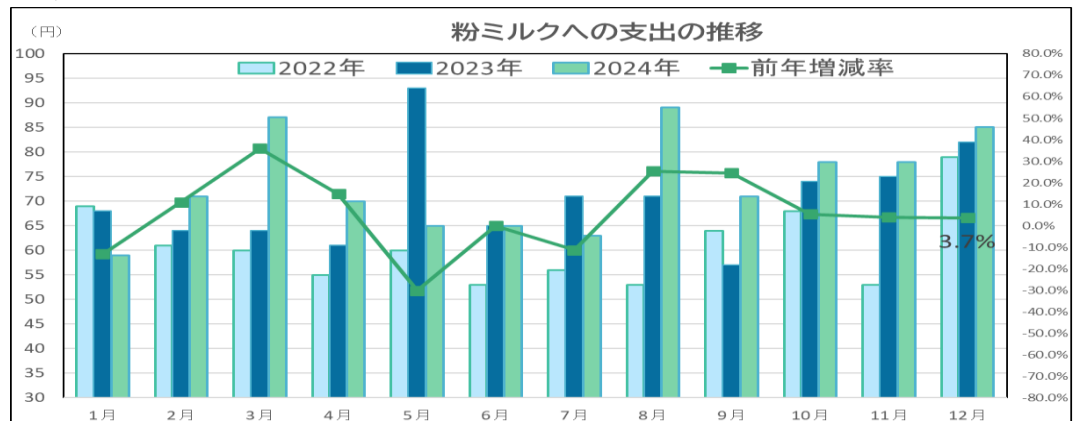


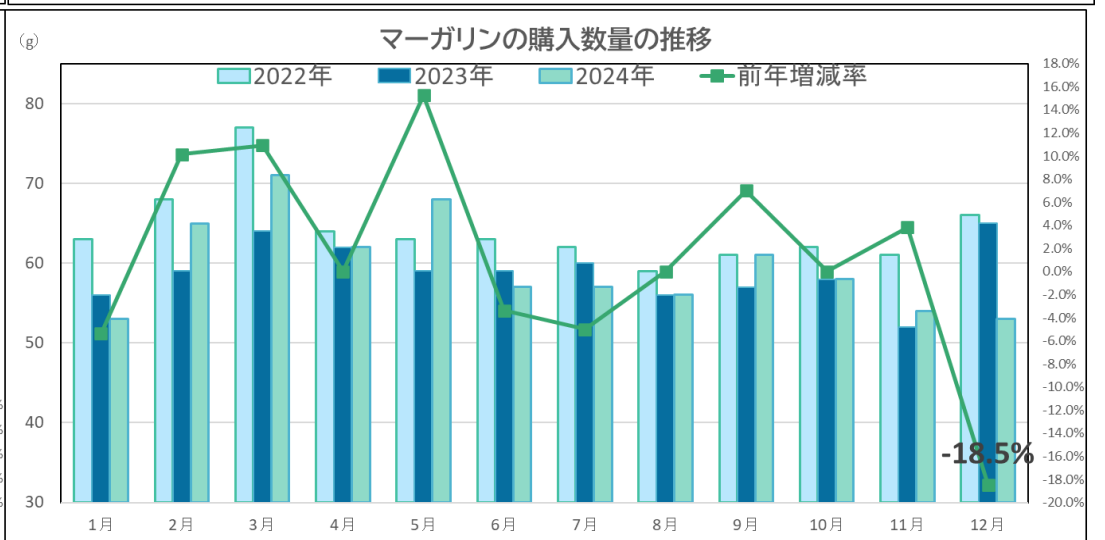
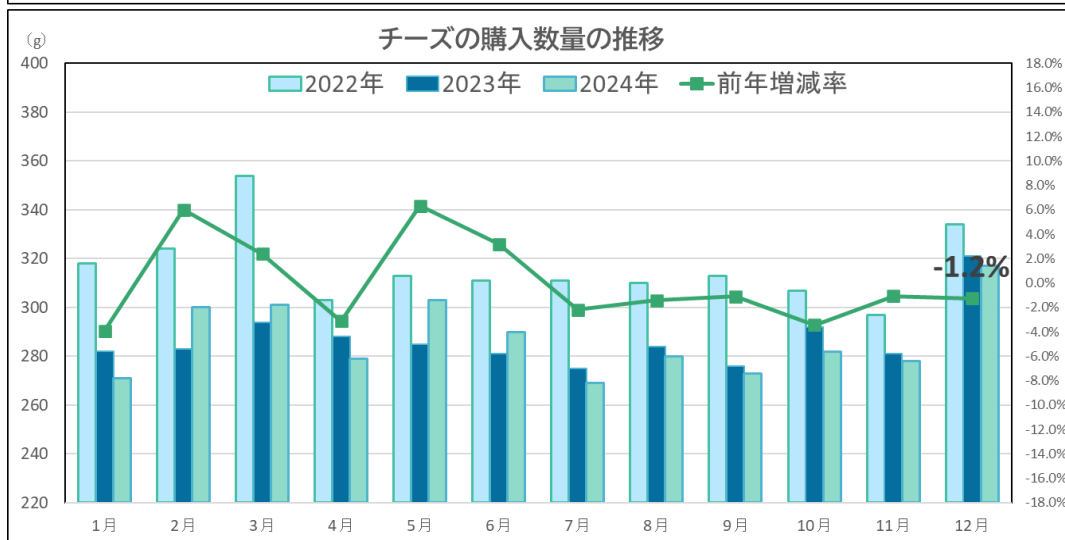
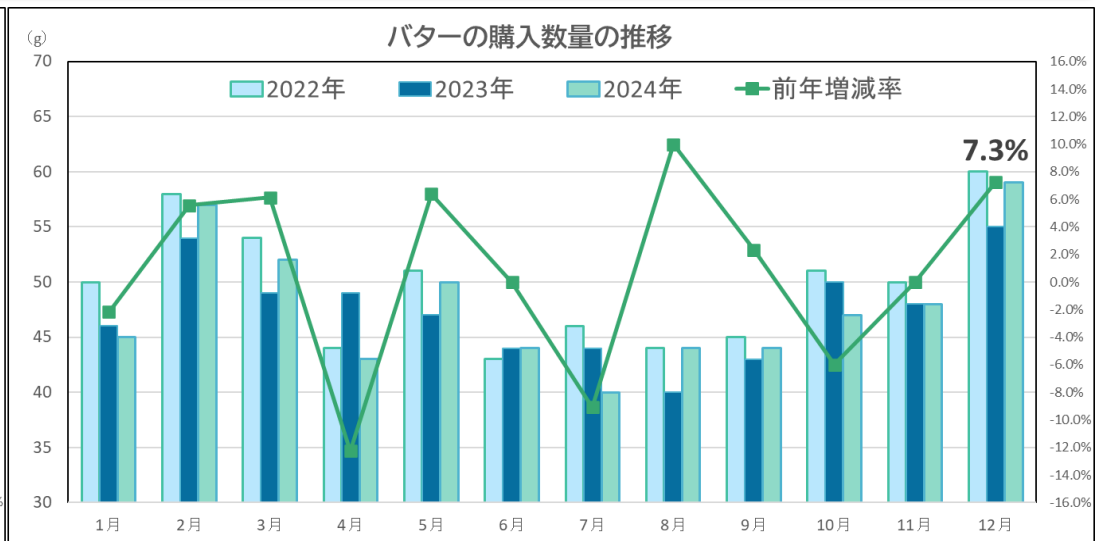
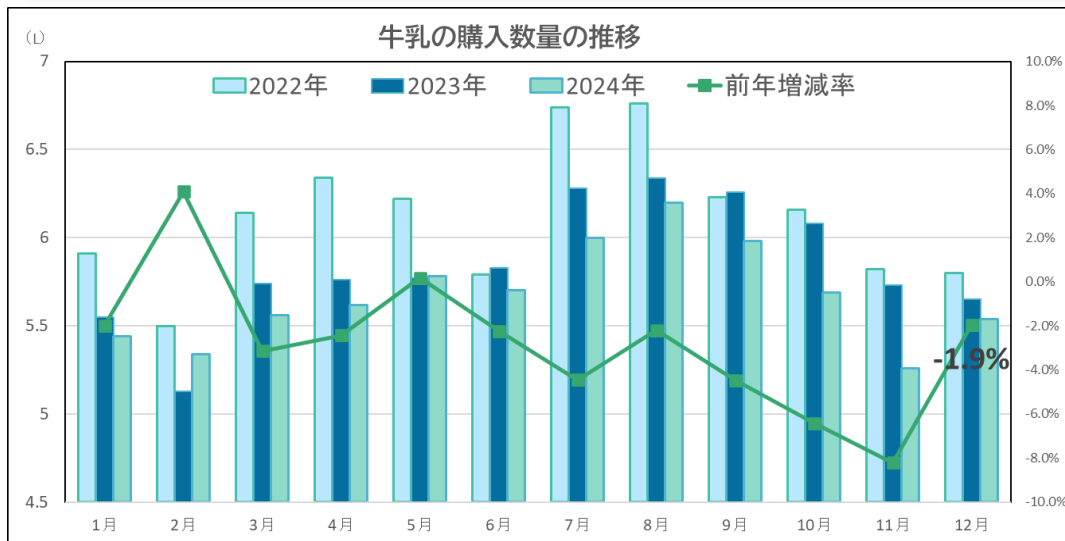
【家計支出の動向】

- (1)12月の支出額前年比について、外食104.1%、中食103.2%、内食105.7%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は105.1%となった。
 - (2)牛乳乳製品の支出額も前年比101.3%(うち牛乳96.7%、乳製品104.1%)と4カ月ぶりに前年を上回った。
 - (3)なお、購入量は、牛乳98.1%(1世帯当たり5.5L)と7カ月連続で前年割れ。チーズは6カ月連続で前年割れ、バターは2カ月連続で前年超えとなった。
- ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



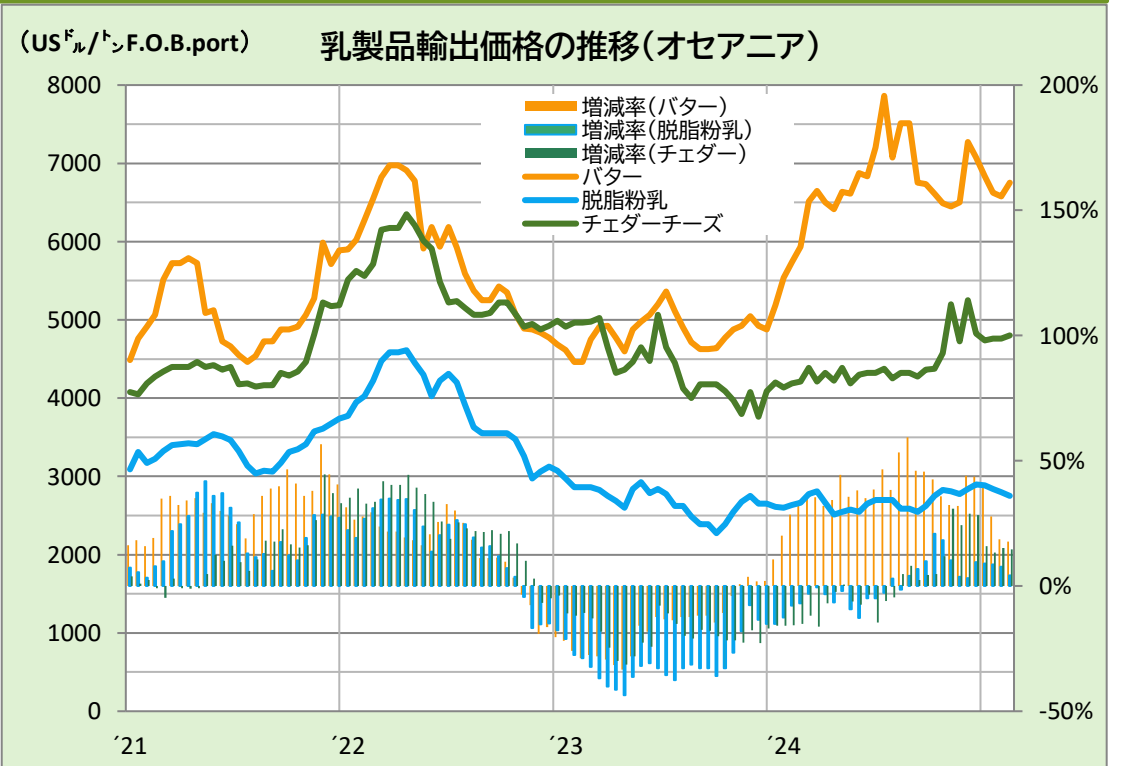
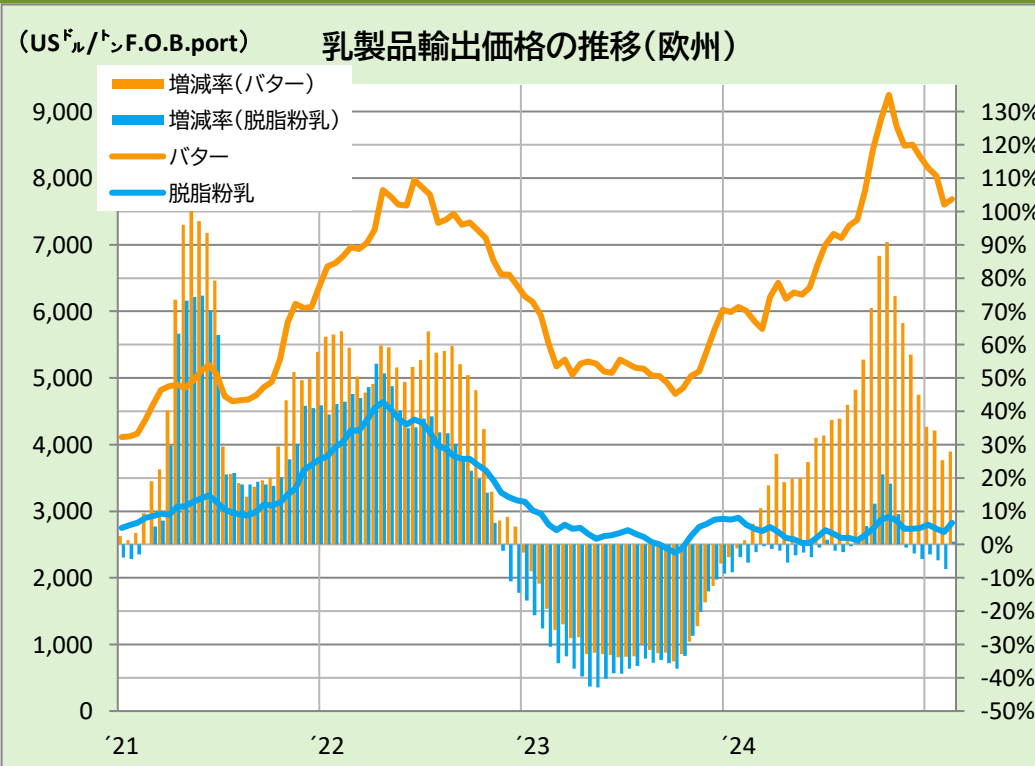


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(1月中旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,825ドル/ト、バター7,688ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,750ドル/ト、バター6750ドル/ト、チエダーチーズは4,800ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2024年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」